

令和元年度
松山市 市民意識調査
報告書
(概要版)

令和2年3月



松山市

目次

I	調査概要	3
1.	調査目的	3
2.	調査項目	3
3.	調査対象	3
4.	調査方法	3
5.	調査期間	3
6.	回収結果	3
7.	集計方法	4
8.	注意事項	4
II	調査結果	5
1.	回答者について	5
(1)	性別	5
(2)	年齢	5
(3)	職業	6
(4)	居住地域	7
(5)	家族構成	8
(6)	居住年数	9
2.	松山市での暮らしについて	10
(1)	松山市のどのようなところを「住みやすい」と感じるか	10
(2)	松山市のどのようなところを「住みにくい」と感じるか	12
(3)	松山市は住みやすいまちか	14
(4)	松山市のどのようなところに愛着や誇りを感じるか	15
(5)	松山市のどのようなところに愛着や誇りを感じにくいか	17
(6)	松山市に愛着や誇りを感じるか	19
(7)	今後も松山市に住み続けたいか	20
3.	読書活動・図書館利用について	21
(1)	月に何冊くらいの本を読んでいるか	21
(2)	年間にどれくらい松山市立図書館を利用しているか	21
(3)	どのような目的で市立図書館を利用したか	22
(4)	利用していない理由は何か	22
(5)	市立図書館について松山市が力を入れるべきこと	23
4.	文化芸術について	24
(1)	知っている「松山ブンカ・ラボ」の取り組み	24
(2)	知っている松山市の「ことばのちから」の取り組み	24
(3)	「文化芸術」「ことばのちから」の取り組みについての意見・提案	25
5.	防災対策について	26
(1)	災害に備えた家庭内での食料と飲料水の備蓄状況	26
(2)	災害に備え、家具類の固定や落下防止策を行っているか	26
(3)	防災・災害の情報収集手段	27
(4)	防災・災害情報を受け取れていると感じるか	28
(5)	どのような手段があれば、防災・災害情報を受け取れると思うか	28

6. 墓地に関することについて	29
(1) 先祖や親のお墓を守る立場にあるか	29
(2) 墓地を購入したいと思うか	29
(3) どのような形態の埋葬を希望しているか	30
(4) どのような運営主体の墓地を希望しているか	30
7. SDGs(エスディーゼーズ)について	31
(1) SDGsについて知っているか	31
(2) 身近でSDGsに取り組んでいる事例を知っているか	32
8. 市の取り組んでいる施策の満足度・重要度について	33
(1) 健康・福祉に関する施策	33
(2) 安全・安心に関する施策	34
(3) 産業・交流に関する施策	35
(4) 教育・文化に関する施策	36
(5) 環境・都市に関する施策	37
(6) 自治・行政に関する施策	38
Ⅲ 調査分析	39
1. 満足度・重要度	39
2. 施策の優先度について	41
3. 重要度及び満足度、優先度の関係	42

I 調査概要

1. 調査目的

第6次松山市総合計画に掲げた各施策に対する市民の重要度、満足度、優先度等を把握するため、市民に対して意識調査を実施し、計画的かつ効率的な進行管理を図るための基礎資料とする。

2. 調査項目

1. 回答者について
2. 松山市での暮らしについて
3. 読書活動・図書館利用について
4. 文化芸術について
5. 防災対策について
6. 墓地に関することについて
7. SDGs（エスディージーズ）について
8. 市の取り組んでいる施策の満足度・重要度について
9. 施策の優先度について

3. 調査対象

2020年1月1日現在（無作為抽出）

- ①性別：男女計2,000人
- ②年齢：18歳以上の市民
- ③地域：松山市全域（集計・分析は公民館ブロックの地区ごと）

4. 調査方法

郵送調査

5. 調査期間

2020年1月27日～2月17日

6. 回収結果

	発送件数	回収数	回収率
全体	2,000	1,127	56.4%

7. 集計方法

項目	内容																		
性別集計	男性、女性ごとに集計。																		
年齢別集計	20歳代以下（18～29歳）、30歳代（30～39歳）、40歳代（40～49歳）、50歳代（50～59歳）、60歳代（60～69歳）、70歳以上の6区分で集計。																		
地域別	<ul style="list-style-type: none"> ・41居住地を、8公民館ブロックに集約。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>ブロック</th> <th>公民館区分</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1ブロック</td> <td>1. 湯山 2. 日浦 3. 五明 4. 伊台</td> </tr> <tr> <td>第2ブロック</td> <td>5. 久米 6. 小野 7. 石井 8. 浮穴 9. 荏原 10. 坂本</td> </tr> <tr> <td>第3ブロック</td> <td>11. 八坂 12. 素鷲 13. 道後 14. 東雲 15. 番町 16. 桑原</td> </tr> <tr> <td>第4ブロック</td> <td>17. 新玉 18. 雄郡 19. 清水 20. 味酒</td> </tr> <tr> <td>第5ブロック</td> <td>21. 生石 22. 余土 23. 垣生 24. 味生</td> </tr> <tr> <td>第6ブロック</td> <td>25. 三津浜 26. 宮前 27. 高浜 28. 泊 29. 由良 30. 中島</td> </tr> <tr> <td>第7ブロック</td> <td>31. 和気 32. 潮見 33. 堀江 34. 久枝</td> </tr> <tr> <td>第8ブロック</td> <td>35. 浅海 36. 立岩 37. 難波 38. 正岡 39. 北条 40. 河野 41. 粟井</td> </tr> </tbody> </table>	ブロック	公民館区分	第1ブロック	1. 湯山 2. 日浦 3. 五明 4. 伊台	第2ブロック	5. 久米 6. 小野 7. 石井 8. 浮穴 9. 荏原 10. 坂本	第3ブロック	11. 八坂 12. 素鷲 13. 道後 14. 東雲 15. 番町 16. 桑原	第4ブロック	17. 新玉 18. 雄郡 19. 清水 20. 味酒	第5ブロック	21. 生石 22. 余土 23. 垣生 24. 味生	第6ブロック	25. 三津浜 26. 宮前 27. 高浜 28. 泊 29. 由良 30. 中島	第7ブロック	31. 和気 32. 潮見 33. 堀江 34. 久枝	第8ブロック	35. 浅海 36. 立岩 37. 難波 38. 正岡 39. 北条 40. 河野 41. 粟井
ブロック	公民館区分																		
第1ブロック	1. 湯山 2. 日浦 3. 五明 4. 伊台																		
第2ブロック	5. 久米 6. 小野 7. 石井 8. 浮穴 9. 荏原 10. 坂本																		
第3ブロック	11. 八坂 12. 素鷲 13. 道後 14. 東雲 15. 番町 16. 桑原																		
第4ブロック	17. 新玉 18. 雄郡 19. 清水 20. 味酒																		
第5ブロック	21. 生石 22. 余土 23. 垣生 24. 味生																		
第6ブロック	25. 三津浜 26. 宮前 27. 高浜 28. 泊 29. 由良 30. 中島																		
第7ブロック	31. 和気 32. 潮見 33. 堀江 34. 久枝																		
第8ブロック	35. 浅海 36. 立岩 37. 難波 38. 正岡 39. 北条 40. 河野 41. 粟井																		
満足度得点 重要度得点	<ul style="list-style-type: none"> ・第6次松山市総合計画（後期基本計画）の施策ごとの評価。 <p>選択肢1「不満、重要でない」から選択肢5「満足、重要」までに、それぞれ1点～5点を与え、加重平均を算出した。選択肢0「判断できない」及び「無回答」のサンプルは集計対象から除外した。</p>																		
優先度	<ul style="list-style-type: none"> ・優先的に取り組むべき施策として選択された項目について集計した。 																		
満足度、重要度、優先度の関係	<ul style="list-style-type: none"> ・施策の満足度、重要度を得点に基づき可視化するとともに、優先度が高い施策との相関を示した。 																		

8. 注意事項

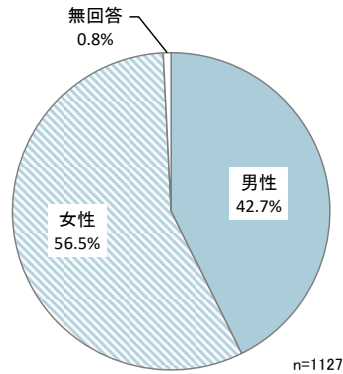
- 図表中の「n」（Number of samples の略）は、設問に対する回答者の総数を示しており、回答者の構成比（％）を算出するための基数です。
- 図表中の構成比（％）は、小数点第2位以下を四捨五入しています。そのため、個々の構成比の合計が100.0%にならない場合（99.9%、100.1%など）があります。
- 複数回答の設問は、回答が2つ以上ありうるので、合計は100%を超えることもあります。
- 各設問の集計は、無回答を含めて集計しています。

Ⅱ 調査結果

1. 回答者について

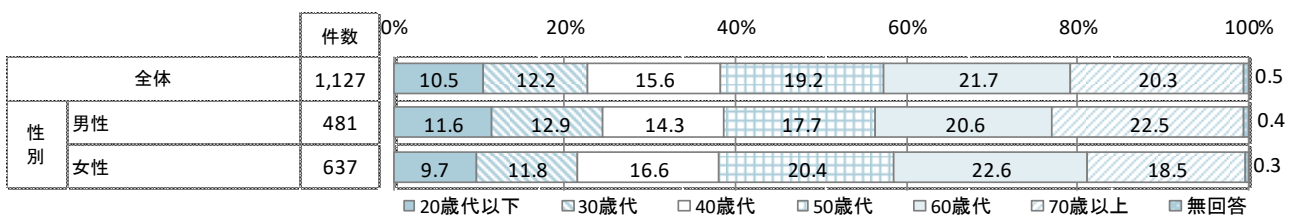
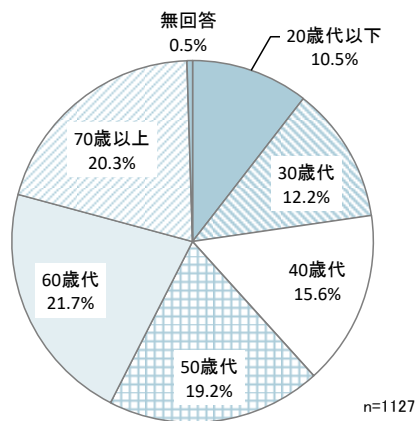
(1) 性別

- ・性別は、「男性」が42.7%、「女性」が56.5%であった。



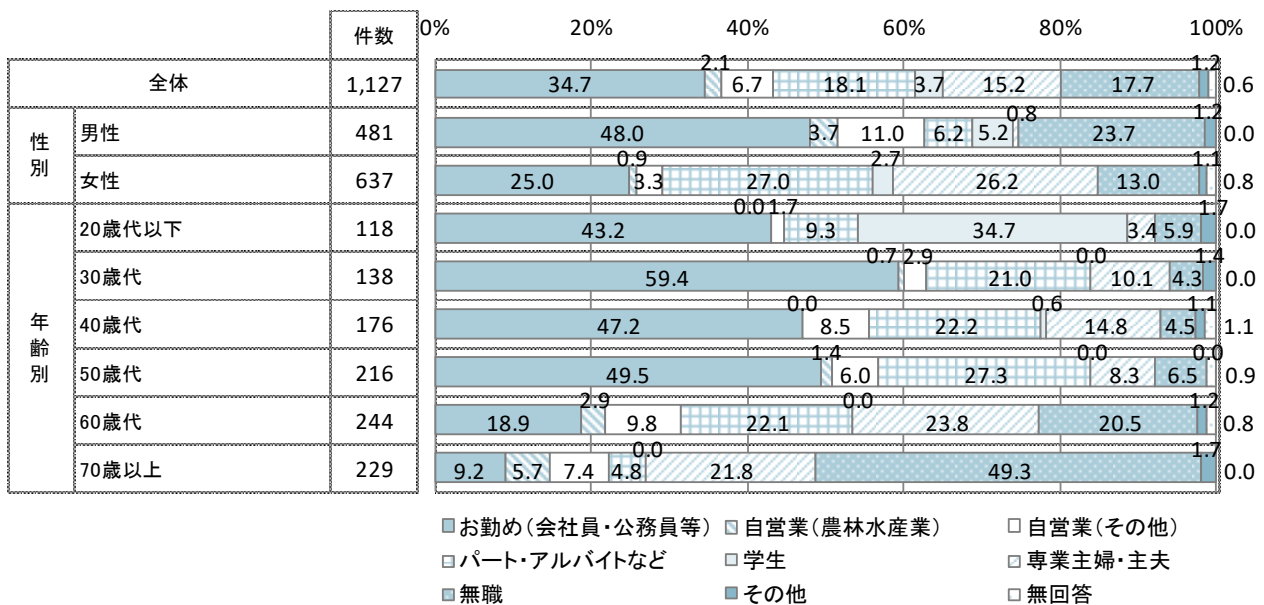
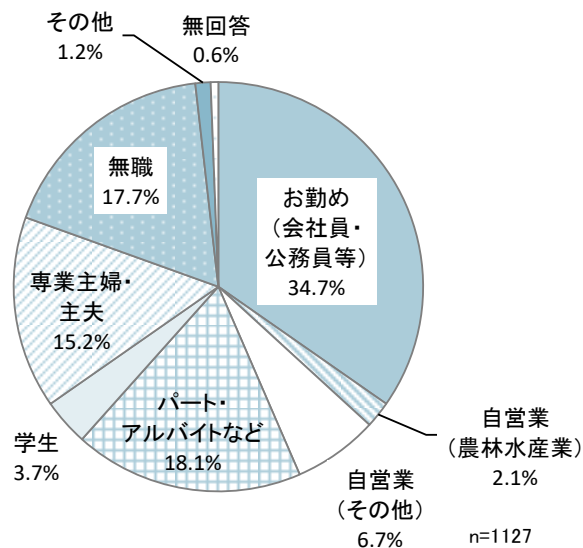
(2) 年齢

- ・全体結果では、「60歳代」が21.7%で最も高く、次いで「70歳以上」20.3%、「50歳代」19.2%、「40歳代」15.6%、「30歳代」12.2%、「20歳代以下」10.5%であった。
- ・性別では、男性は「70歳以上」が22.5%で最も高く、次いで「60歳代」20.6%、「50歳代」17.7%、「40歳代」14.3%、「30歳代」12.9%、「20歳代以下」11.6%であった。女性は「60歳代」が22.6%で最も高く、次いで「50歳代」20.4%、「70歳以上」18.5%、「40歳代」16.6%、「30歳代」11.8%、「20歳代以下」9.7%であった。



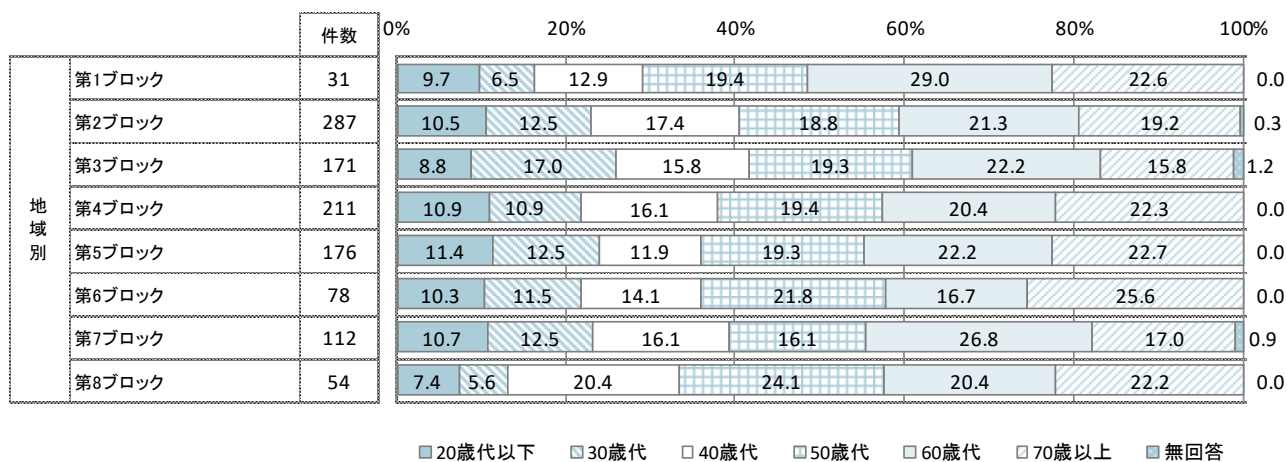
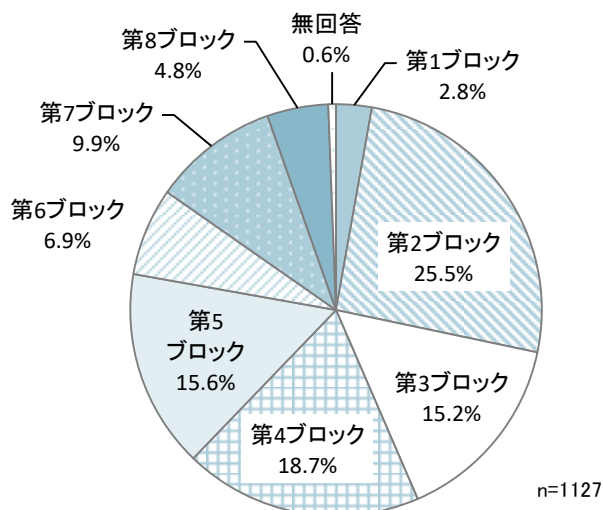
(3) 職業

- ・全体結果では、「お勤め（会社員・公務員等）」が 34.7%で最も高く、次いで「パート・アルバイトなど」18.1%、「無職」17.7%、「専業主婦・主夫」15.2%、「自営業（その他）」6.7%、「学生」3.7%、「自営業（農林水産業）」2.1%、「その他」1.2%であった。
- ・性別では、男性は「お勤め（会社員・公務員等）」が 48.0%で最も高く、次いで「無職」23.7%、「自営業（その他）」11.0%と続いた。
女性では「パート・アルバイトなど」が 27.0%で最も高く、次いで「専業主婦・主夫」26.2%、「お勤め（会社員・公務員等）」25.0%と続いた。
- ・年齢別では、50 歳代以下の年代では「お勤め（会社員・公務員等）」が最も高く、これに次いで 20 歳代以下では「学生」、30 歳代から 50 歳代では「パート・アルバイトなど」と「専業主婦・主夫」の割合が高くなっている。60 歳代では「専業主婦・主夫」が最も高く、70 歳以上では「無職」が最も高い。また、「自営業（農林水産業）」は 70 歳以上で比較的高くなっている。



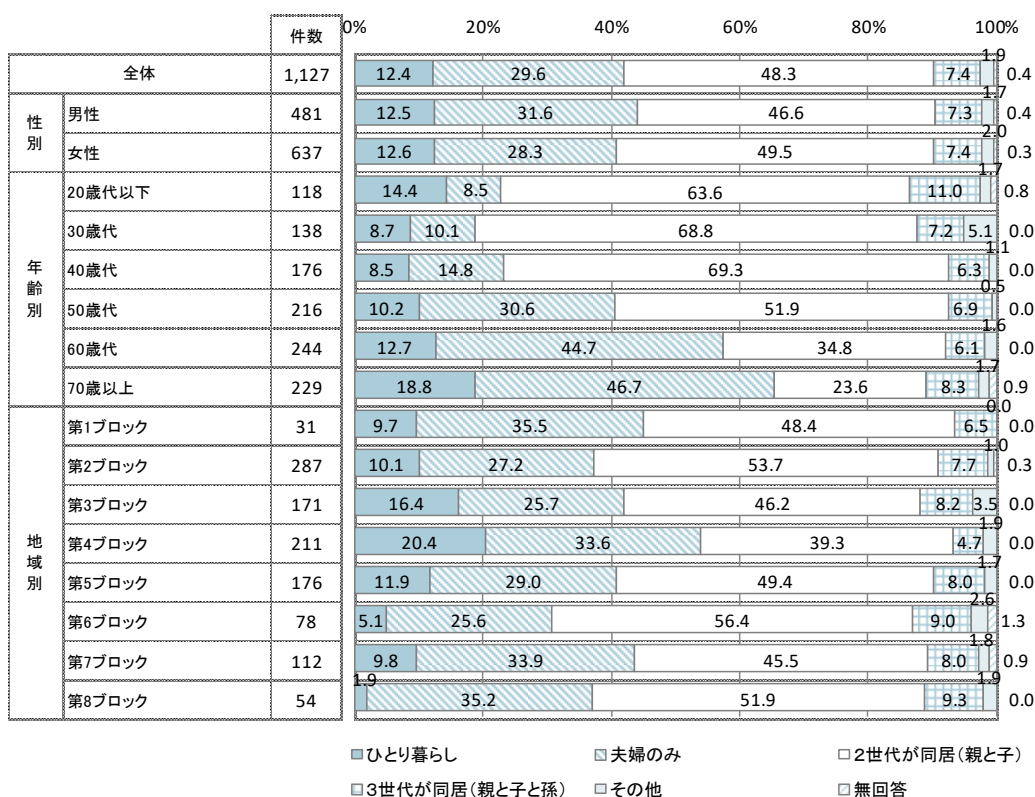
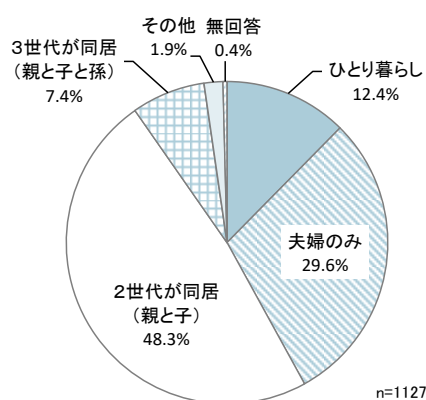
(4) 居住地域

- ・全体結果では、「第2ブロック」の25.5%が最も高く、次いで、「第4ブロック」18.7%、「第5ブロック」15.6%、「第3ブロック」15.2%、「第7ブロック」9.9%、「第6ブロック」6.9%、「第8ブロック」4.8%、「第1ブロック」2.8%の順となった。
- ・年齢層をみると、60歳代及び70歳以上の合計割合は第1ブロックで5割を超え、その他の地域でも4割前後となっている。20歳代以下及び30歳代の合計割合は、第3ブロックの25.8%が最も高く、第8ブロックの13.0%が最も低くなっている。40歳代及び50歳代の合計割合はすべての地域で3割から4割半ばとなっている。



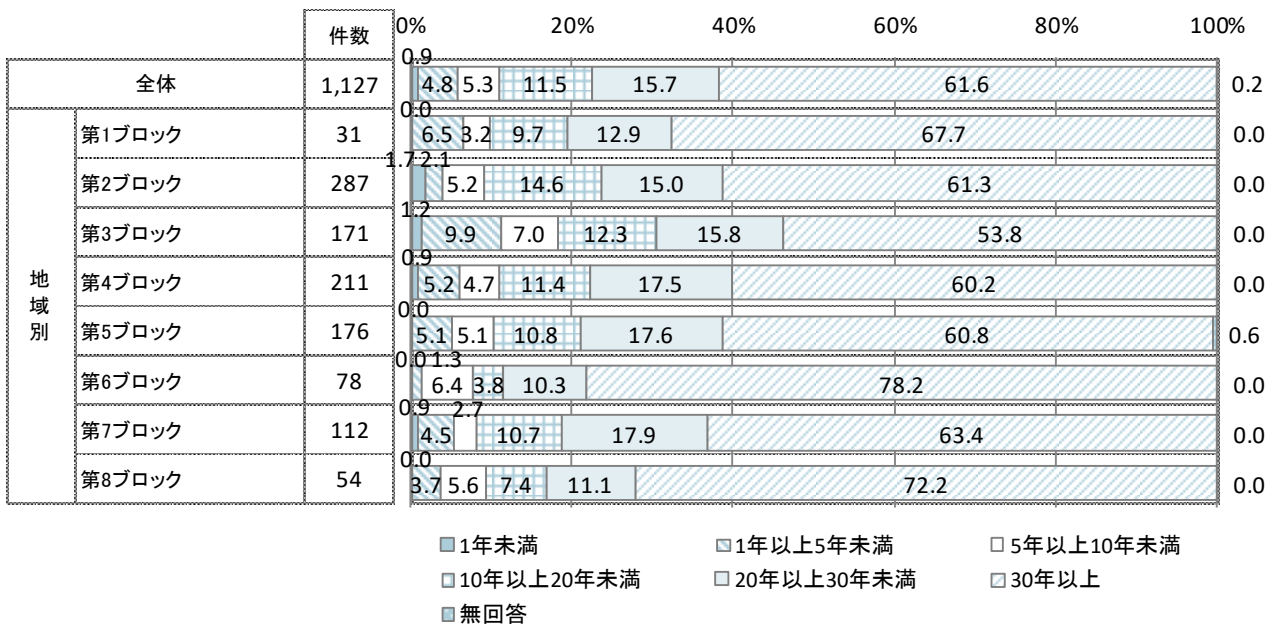
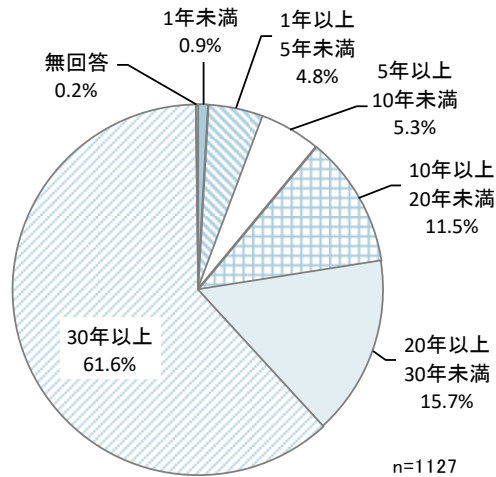
(5) 家族構成

- ・ 全体結果では、「2世代が同居（親と子）」が 48.3%で最も高く、次いで「夫婦のみ」29.6%、「ひとり暮らし」12.4%、「3世代が同居（親と子と孫）」7.4%と続いた。
- ・ 性別では、男女ともに「2世代が同居（親と子）」が最も高く、男性 46.6%、女性 49.5%となった。次いで「夫婦のみ」「ひとり暮らし」の順で続いた。
- ・ 年齢別では、50歳代以下の年代では「2世代が同居（親と子）」がいずれも半数以上を占め、これに次いで、20歳代以下では「ひとり暮らし」、30歳代から50歳代では「夫婦のみ」が続いた。60歳代及び70歳以上では「夫婦のみ」がそれぞれ44.7%、46.7%と最も高く、次いで「2世代が同居（親と子）」がそれぞれ34.8%、23.6%で続いている。
- ・ 地域別では、すべての地域で「2世代が同居（親と子）」が3割台から5割台で最も高く、次いで「夫婦のみ」が、第6ブロック、第8ブロックでは「3世代が同居（親と子と孫）」、その他の地域では「ひとり暮らし」の順で続いた。



(6) 居住年数

- ・全体結果では、「30年以上」が61.6%と6割を超え、次いで「20年以上30年未満」15.7%、「10年以上20年未満」11.5%、「5年以上10年未満」5.3%、「1年以上5年未満」4.8%、「1年未満」0.9%の順で続いた。通算20年以上の居住者が77.3%と8割近くを占めている。
- ・地域別では、すべての地域で「30年以上」が5割を超えており、第6ブロック、第8ブロックでは7割を超えている。次いで、「20年以上30年未満」、第6ブロックを除き「10年以上20年未満」の順に続き、第6ブロックでは「5年以上10年未満」の順に続いた。第1ブロック、第6ブロック、第7ブロック、第8ブロックでは、通算20年以上の居住者が8割を超えている。

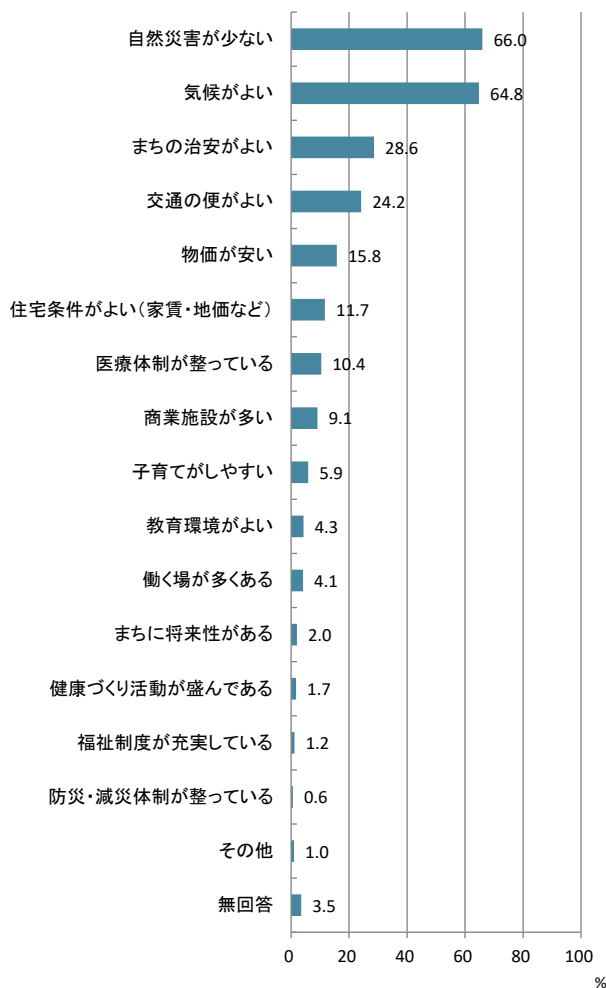


2. 松山市での暮らしについて

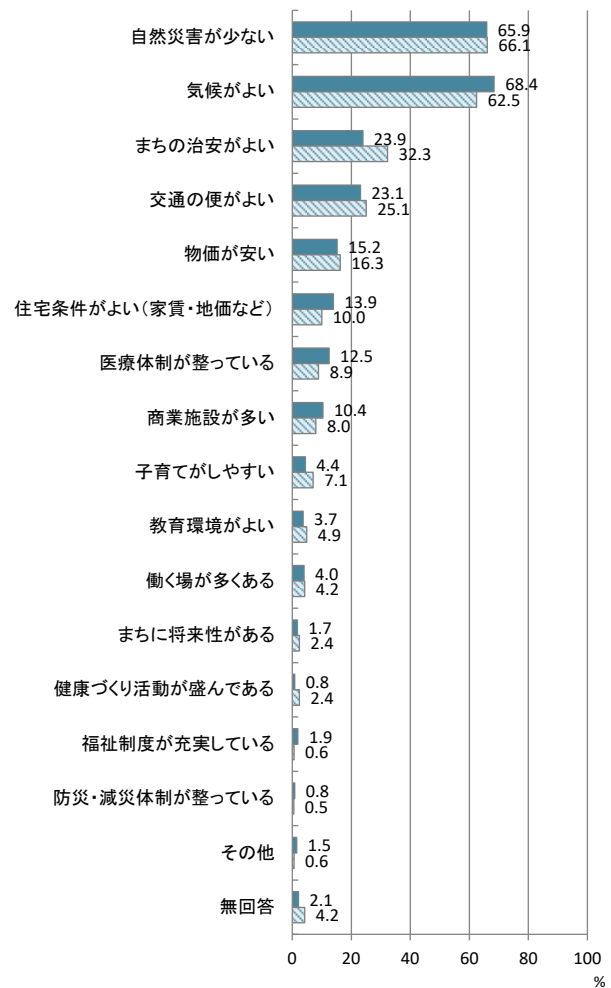
(1) 松山市のどのようなところを「住みやすい」と感じるか

- ・全体結果では、「自然災害が少ない」（66.0%）と「気候がよい」（64.8%）が突出して高く、「まちの治安がよい」（28.6%）、「交通の便がよい」（24.2%）と続いた。
- ・性別では、男女ともに「自然災害が少ない」「気候がよい」が6割を超えており、この2項目が突出している。
- ・年齢別では、30歳代、40歳代、50歳代で「気候がよい」が最も高く、次いで「自然災害が少ない」と続いている。20歳代以下、60歳代、70歳以上では「自然災害が少ない」が最も高く、60歳代、70歳以上では7割を超えている。次いで「気候がよい」が続き、60歳代では7割を超え他の年代より高くなっている。
- ・地域別では、第1ブロック、第6ブロック、第7ブロック、第8ブロックでは「気候がよい」が最も高く、次いで「自然災害が少ない」と続いている。第2ブロック、第3ブロック、第4ブロック、第5ブロックでは「自然災害が少ない」が最も高く、次いで「気候がよい」となっている。3位は第3ブロック、第4ブロックを除いた地域では「まちの治安がよい」、第3ブロックでは「交通の便がよい」、第4ブロックでは「まちの治安がよい」「交通の便がよい」が同率となった。

<全体>



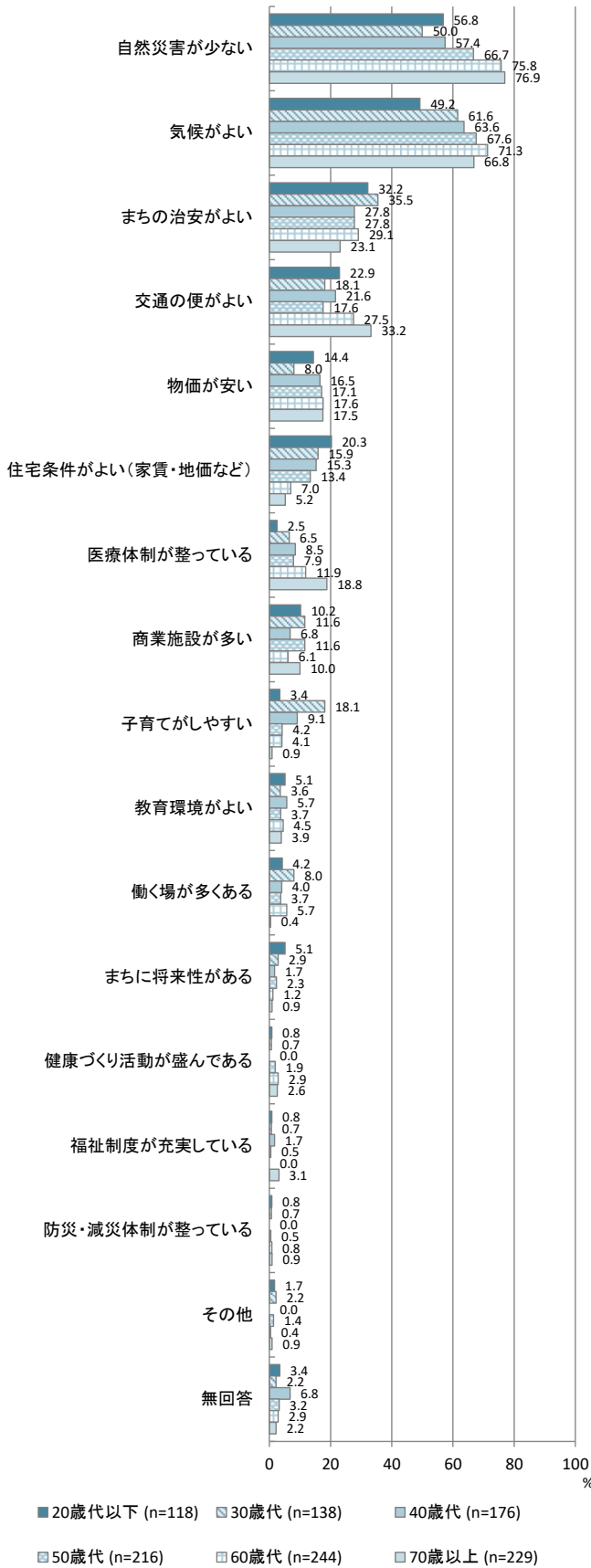
<性別>



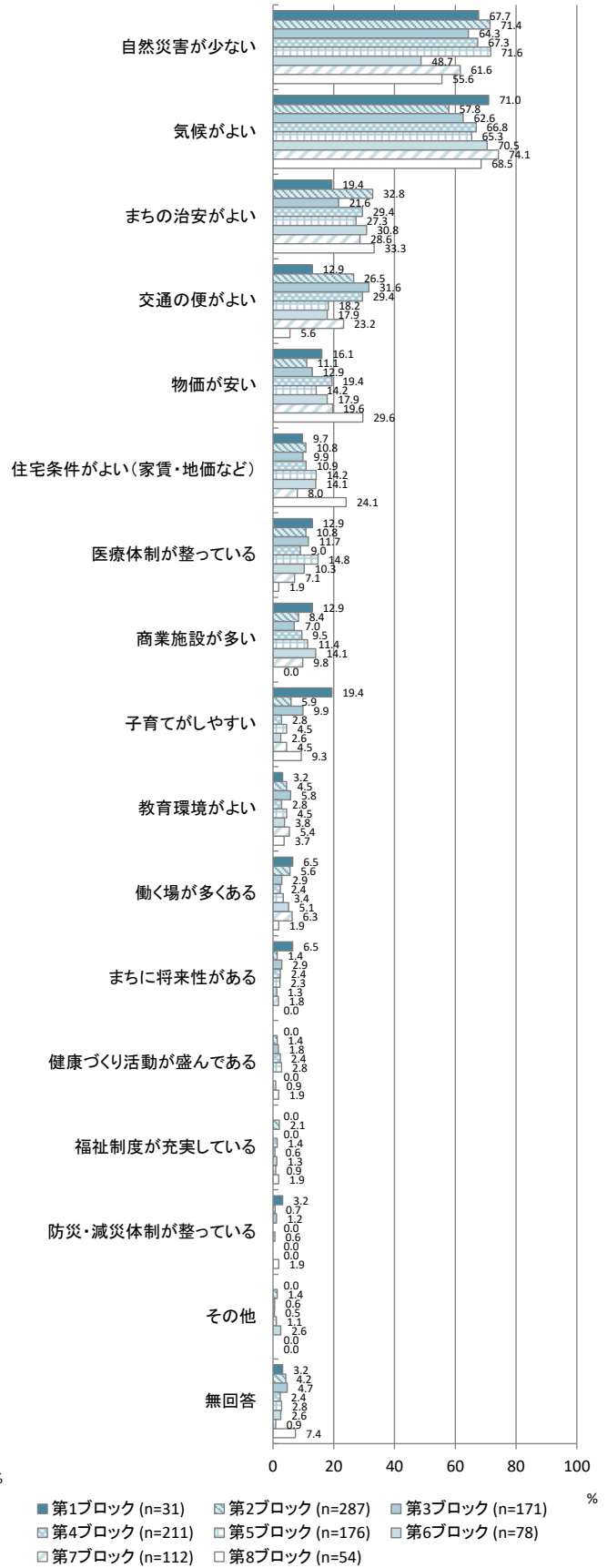
n=1127

■ 男性 (n=481) ■ 女性 (n=637)

<年齢別>



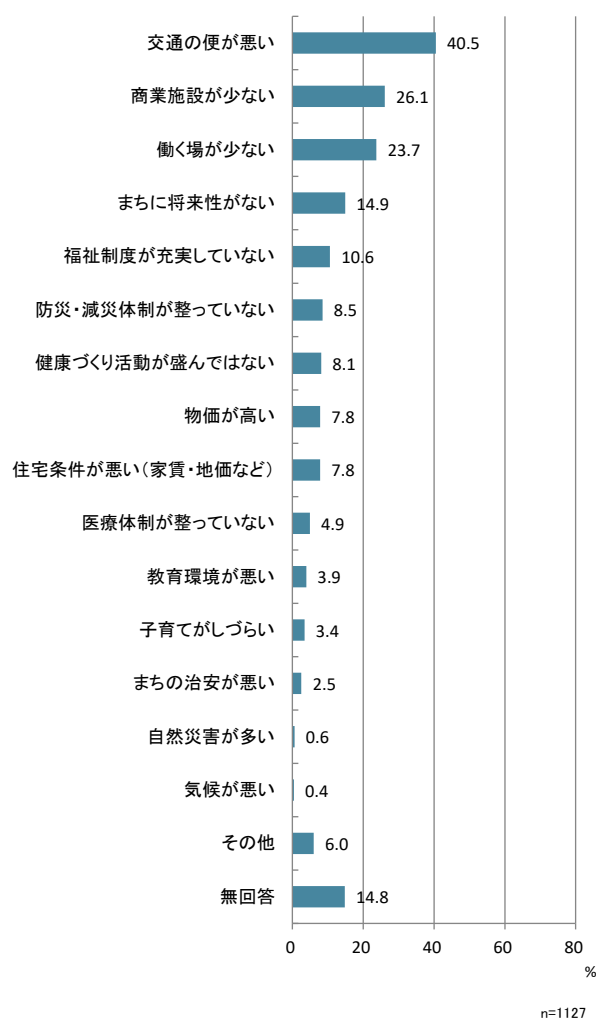
<地域別>



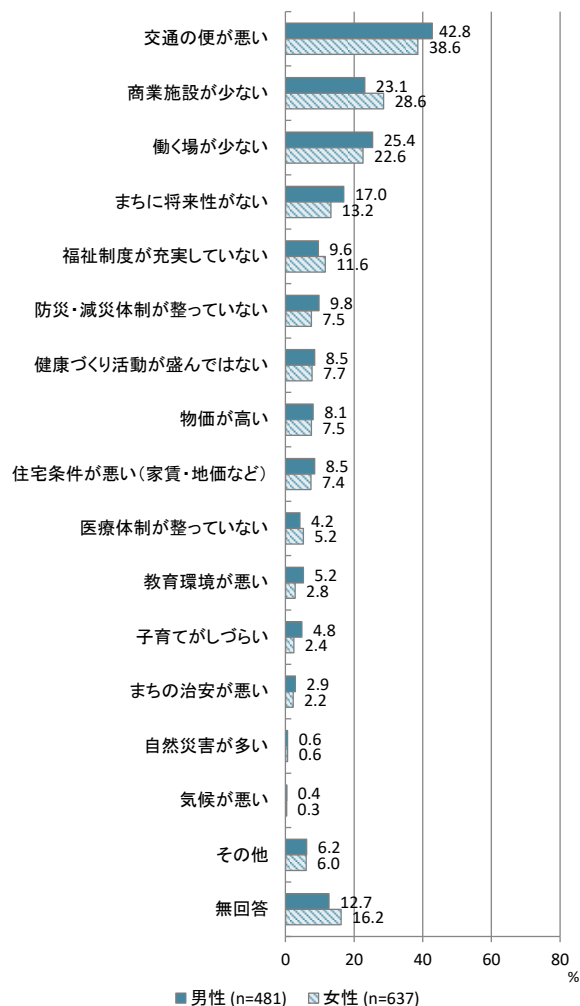
(2) 松山市のどのようなところを「住みにくい」と感じるか

- ・全体結果では、「交通の便が悪い」（40.5％）が最も高く、次いで「商業施設が少ない」（26.1％）、「働く場が少ない」（23.7％）、「まちに将来性がない」（14.9％）、「福祉制度が充実していない」（10.6％）と続いた。
- ・性別では、男女ともに「交通の便が悪い」が4割前後と最も高かった。男性は「働く場が少ない」「商業施設が少ない」の順で続き、女性は「商業施設が少ない」「働く場が少ない」の順で続いた。
- ・年齢別では、20歳代以下を除くすべての年代で「交通の便が悪い」が最も高く、特に40歳代では52.3％と半数を超えた。次いで30歳代、40歳代、50歳代では「商業施設が少ない」「働く場が少ない」の順で続き、60歳代では「働く場が少ない」「商業施設が少ない」、70歳以上では「働く場が少ない」「まちに将来性がない」と続いた。20歳代以下では「商業施設が少ない」が43.2％で最も高く、次いで「交通の便が悪い」「働く場が少ない」と続いた。
- ・地域別では、すべての地域で「交通の便が悪い」が最も高く、第1ブロックでは71.0％となった。次いで、第2ブロック、第4ブロック、第5ブロック、第8ブロックでは、「商業施設が少ない」「働く場が少ない」の順で続き、第1ブロックでは「商業施設が少ない」「働く場が少ない」が同率25.8％、第3ブロックでは「働く場が少ない」「商業施設が少ない」、第7ブロックでは「まちに将来性がない」「商業施設が少ない」の順で続いた。

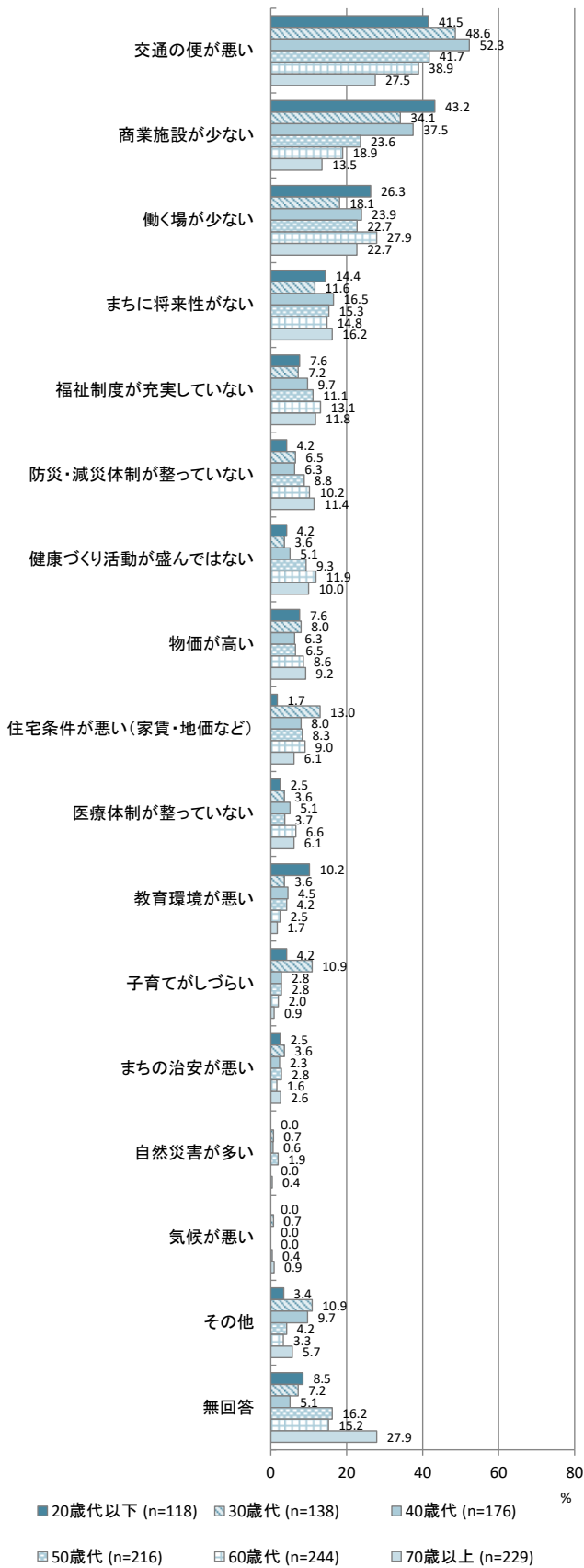
<全体>



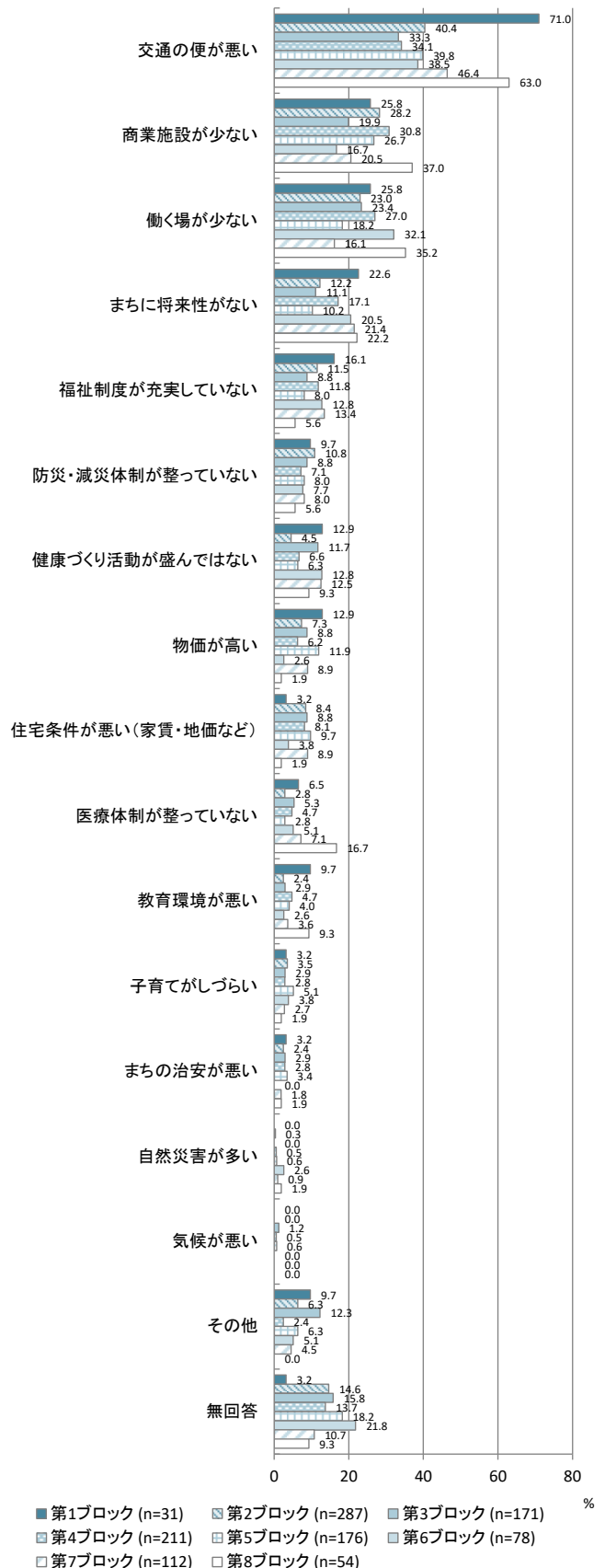
<性別>



<年齢別>

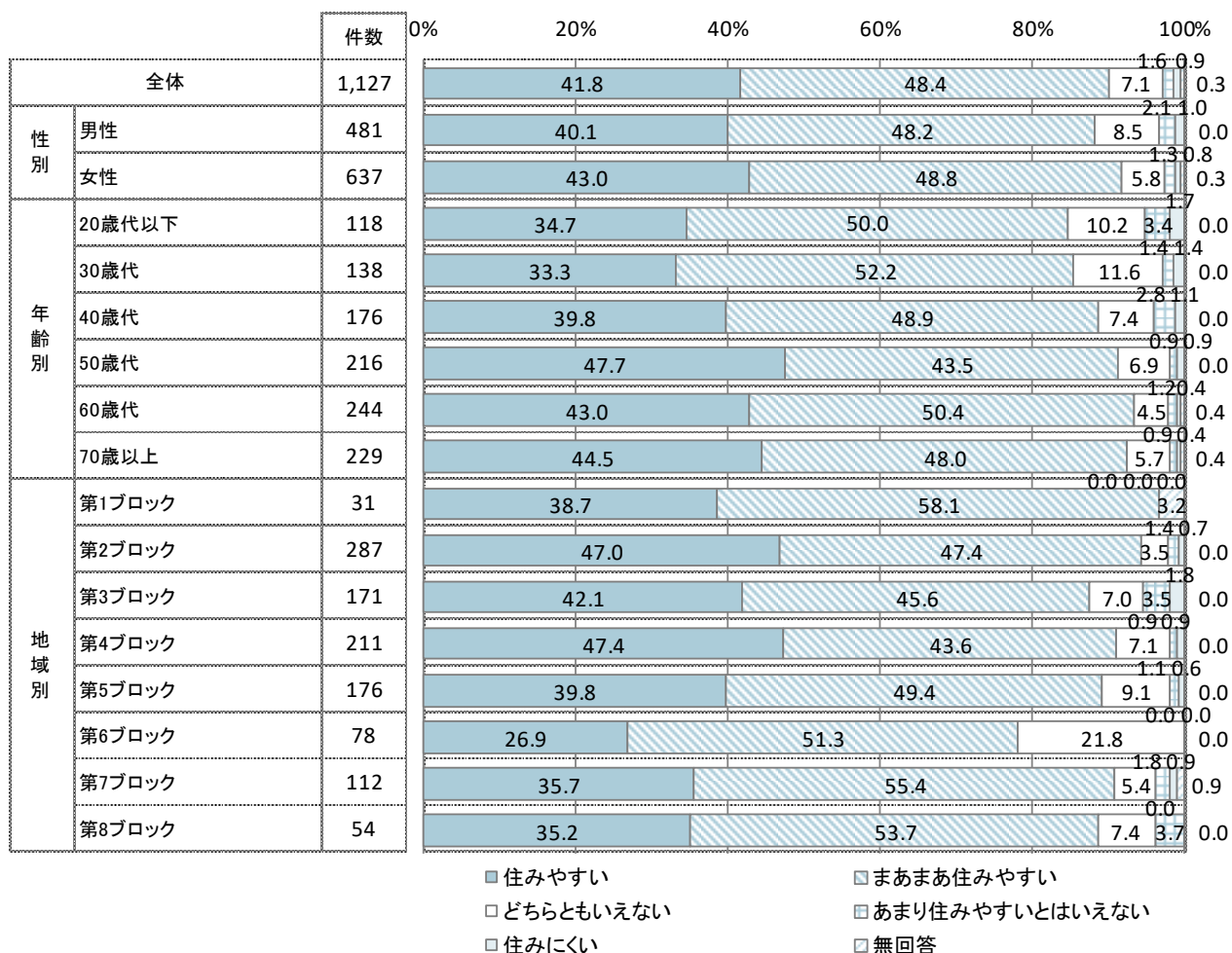


<地域別>



(3) 松山市は住みやすいまちか

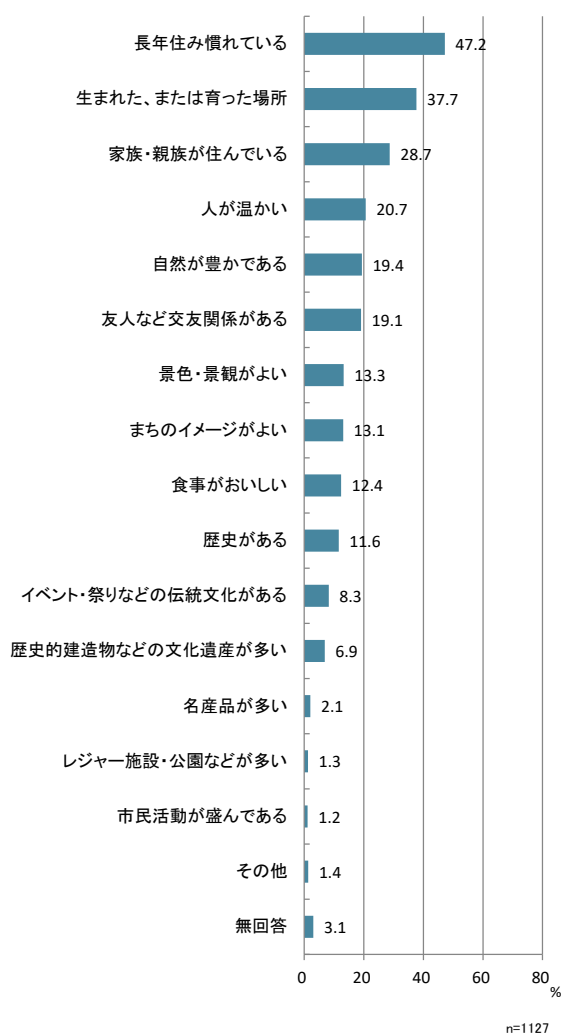
- ・全体結果では、「まあまあ住みやすい」が48.4%で最も高く、次いで「住みやすい」が41.8%と続き、合わせて大半の90.2%が『住みやすい』と感じている。
- ・前年調査時（H30年度）との比較では、『住みやすい』は同率となり、そのうち、「住みやすい」は1.7ポイント減少した一方、「まあまあ住みやすい」は1.7ポイントの増加となった。
- ・性別では、『住みやすい』は男性88.3%、女性91.8%で、ともに9割前後を占めている。
- ・年齢別では、すべての年代で『住みやすい』が8割を超え、50歳代、60歳代、70歳以上では9割を超えている。唯一50歳代で4.2ポイント「住みやすい」が「まあまあ住みやすい」を上回った。
- ・地域別では、第6ブロック以外の地域で『住みやすい』が8割を超え、中でも第1ブロック、第2ブロック、第4ブロック、第7ブロックでは9割を超えている。第6ブロックでは『住みやすい』が78.2%にとどまっており、「どちらともいえない」が21.8%と、他の地域と比べて突出している。



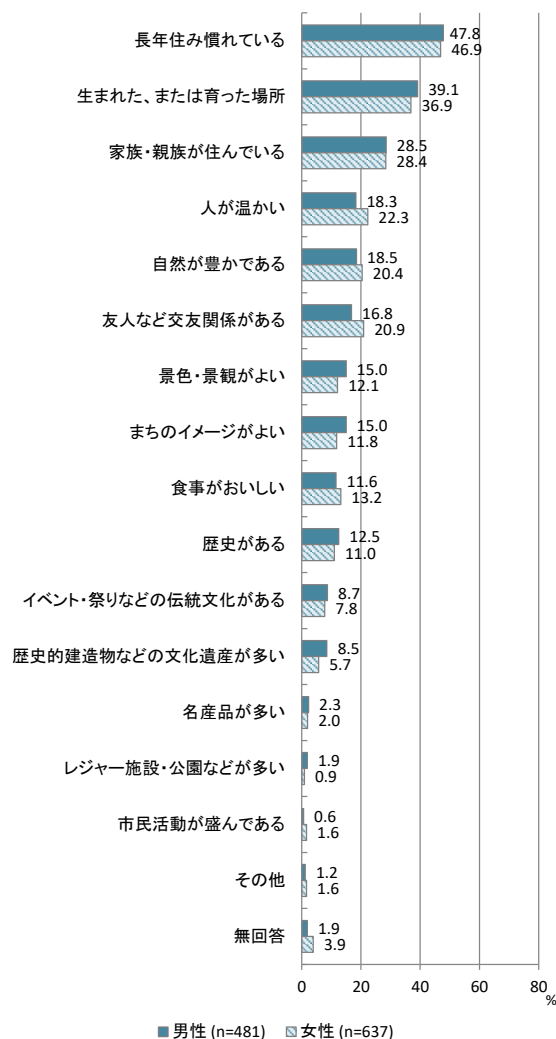
(4) 松山市のどのようなところに愛着や誇りを感じるか

- ・全体結果では、「長年住み慣れている」(47.2%)が最も高く、次いで「生まれた、または育った場所」(37.7%)、「家族・親族が住んでいる」(28.7%)、「人が温かい」(20.7%)、「自然が豊かである」(19.4%)、「友人など交友関係がある」(19.1%)と続いた。
- ・性別では、男女ともに「長年住み慣れている」が4割を超え最も高く、次いで「生まれた、または育った場所」、「家族・親族が住んでいる」と続いた。
- ・年齢別では、20歳代以下と30歳代で「生まれた、または育った場所」が最も高く、次いで20歳代以下では「家族・親族が住んでいる」、「友人など交友関係がある」と続き、30歳代では「長年住み慣れている」、「家族・親族が住んでいる」と続いた。40歳代、50歳代、60歳代、70歳以上では「長年住み慣れている」が最も高く、次いで「生まれた、または育った場所」、「家族・親族が住んでいる」と続いた。
- ・地域別では、第8ブロックを除いたいずれの地域も「長年住み慣れている」が最も高く、次いで「生まれた、または育った場所」と続いた。第8ブロックでは「自然が豊かである」が最も高く、次いで「生まれた、または育った場所」となっている。第8ブロックは「自然が豊かである」が51.9%、「景色・景観がよい」が31.5%と他の地域に比べ高くなっている。

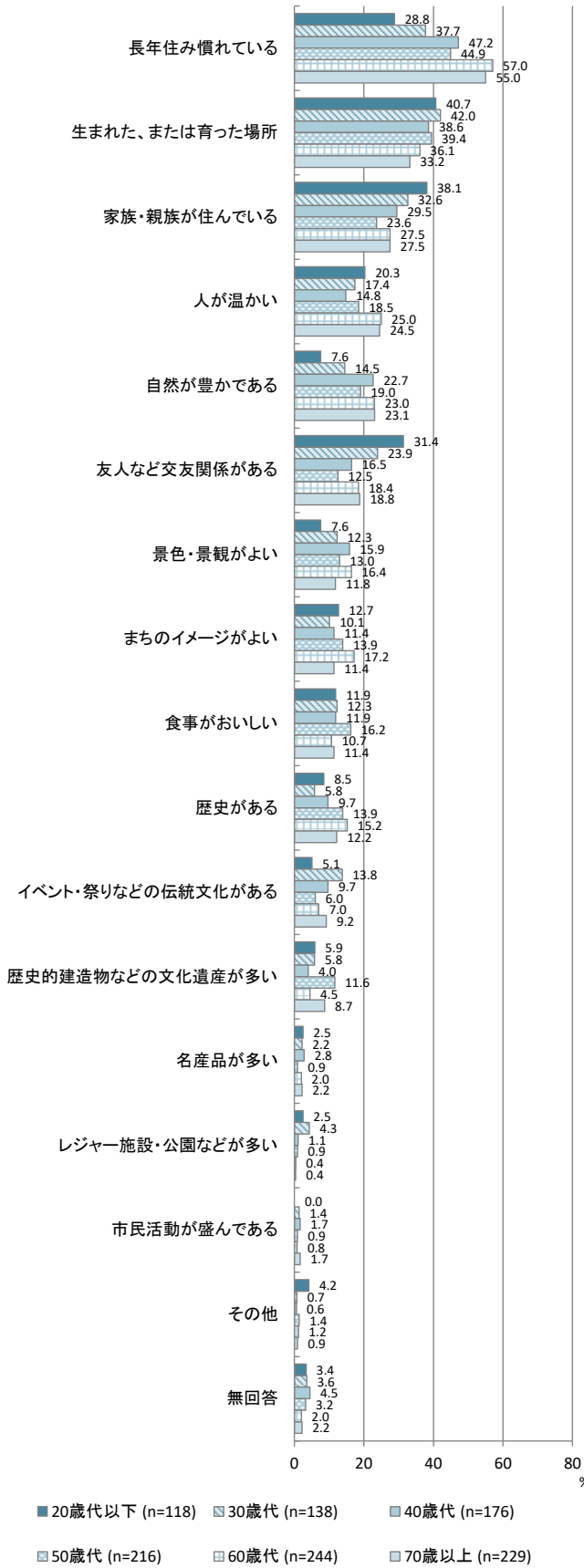
<全体>



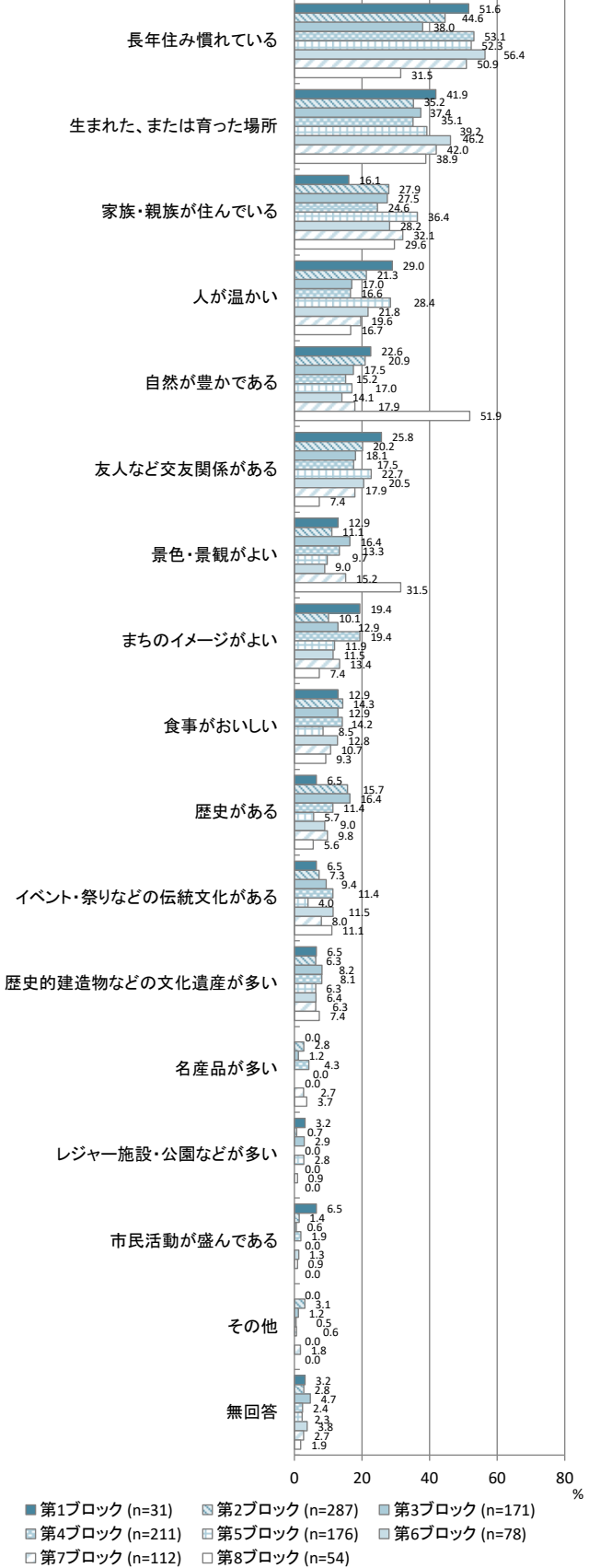
<性別>



<年齢別>



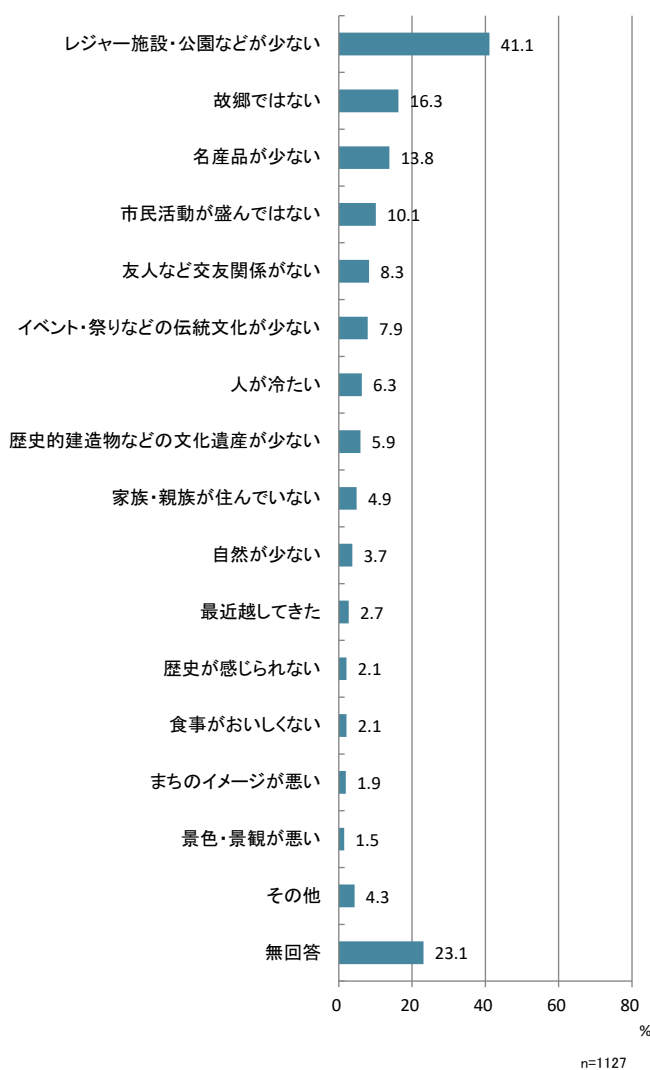
<地域別>



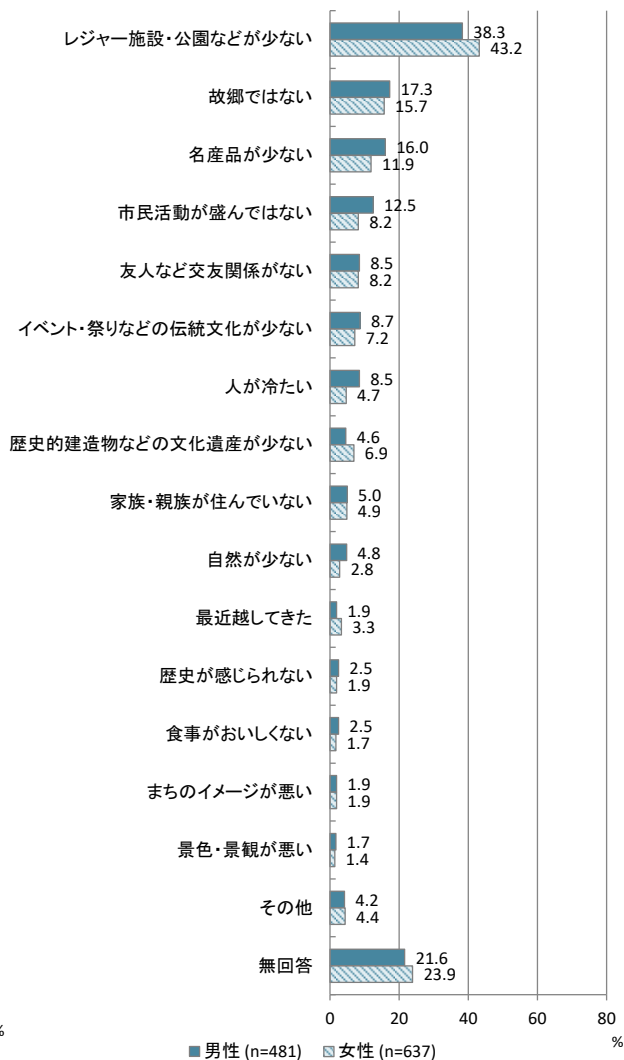
(5) 松山市のどのようなところに愛着や誇りを感じにくい

- ・全体結果では、「レジャー施設・公園などが少ない」(41.1%)が4割台と突出して高い。以下、「故郷ではない」(16.3%)、「名産品が少ない」(13.8%)、「市民活動が盛んではない」(10.1%)、「友人など交友関係がない」(8.3%)と続いた。
- ・性別では、男女ともに「レジャー施設・公園などが少ない」が4割前後で最も高く、次いで「故郷ではない」「名産品が少ない」と続いた。
- ・年齢別では、すべての年代で「レジャー施設・公園などが少ない」が突出して高く、特に40歳代では5割を超えている。20歳代以下、40歳代、50歳代では次いで「故郷ではない」「名産品が少ない」と続き、30歳代、60歳代では「名産品が少ない」「故郷ではない」が続いた。70歳以上では「故郷ではない」「市民活動が盛んではない」の順に続いた。
- ・地域別では、すべての地域で「レジャー施設・公園などが少ない」が最も高いものの、第3ブロックでは34.5%、第6ブロックでは47.4%と、地域間で差が生じている。

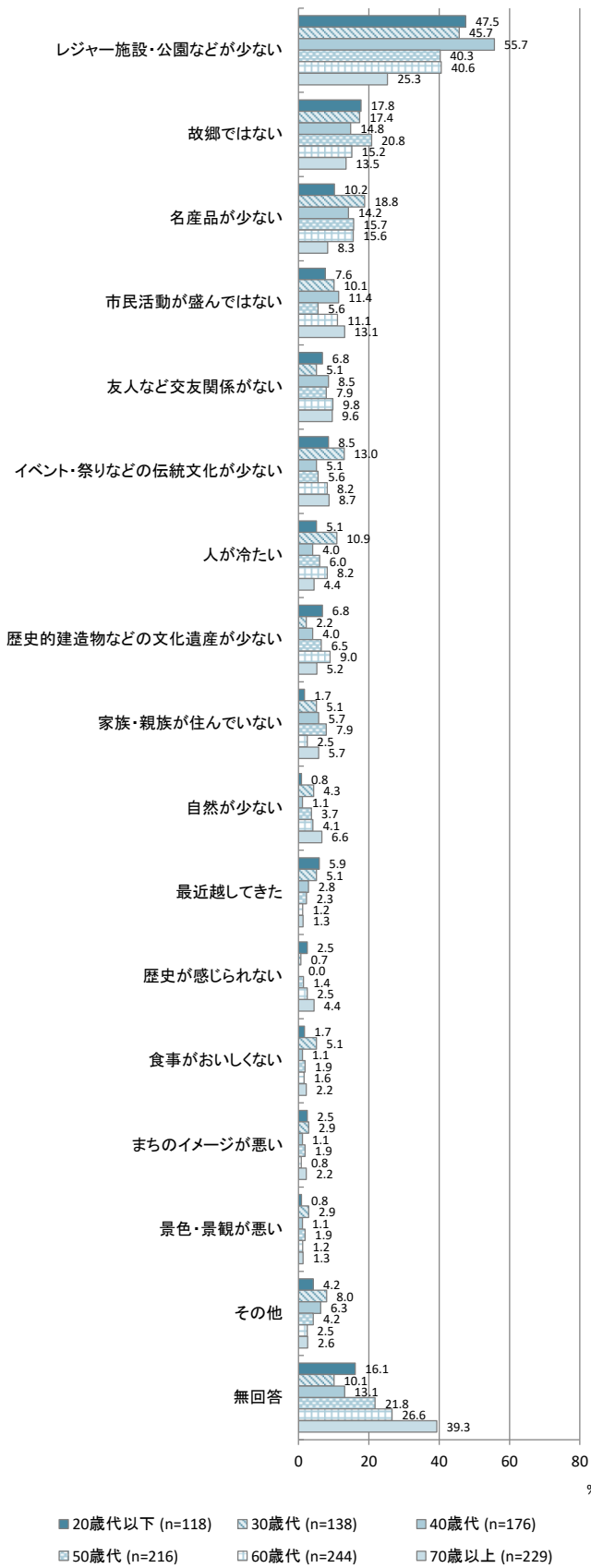
<全体>



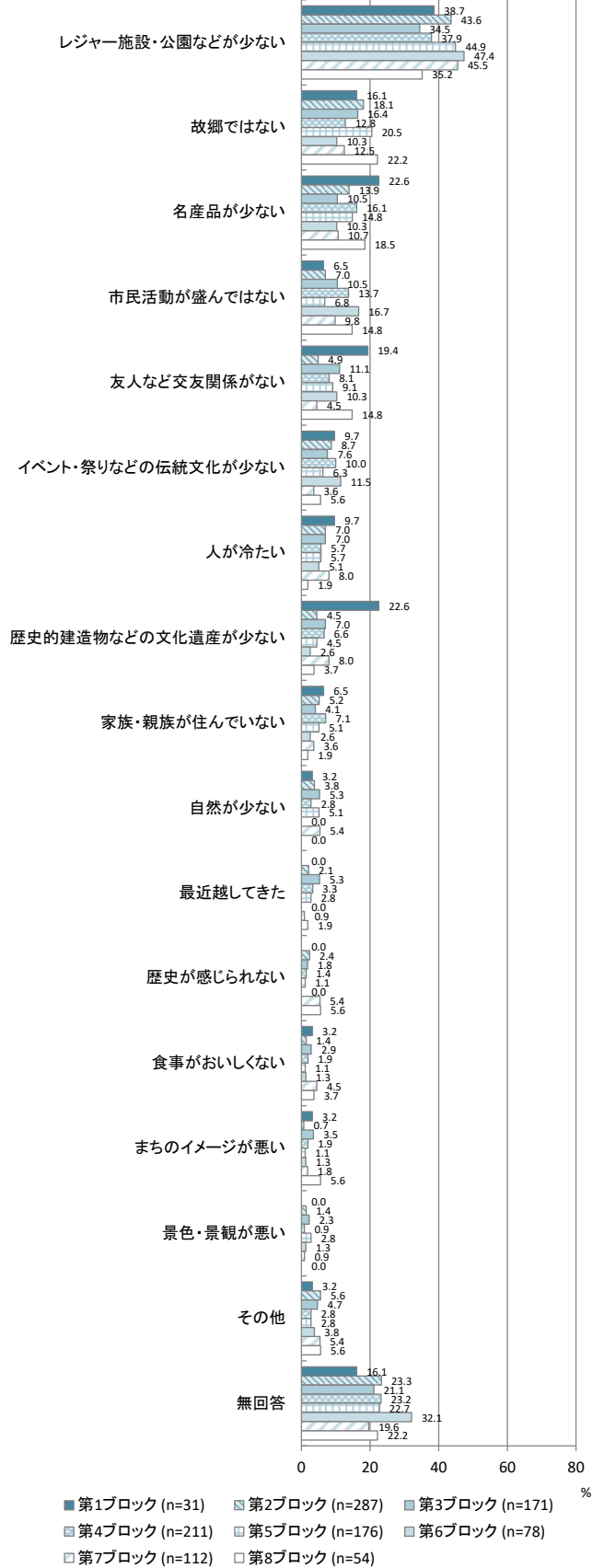
<性別>



< 年齢別 >

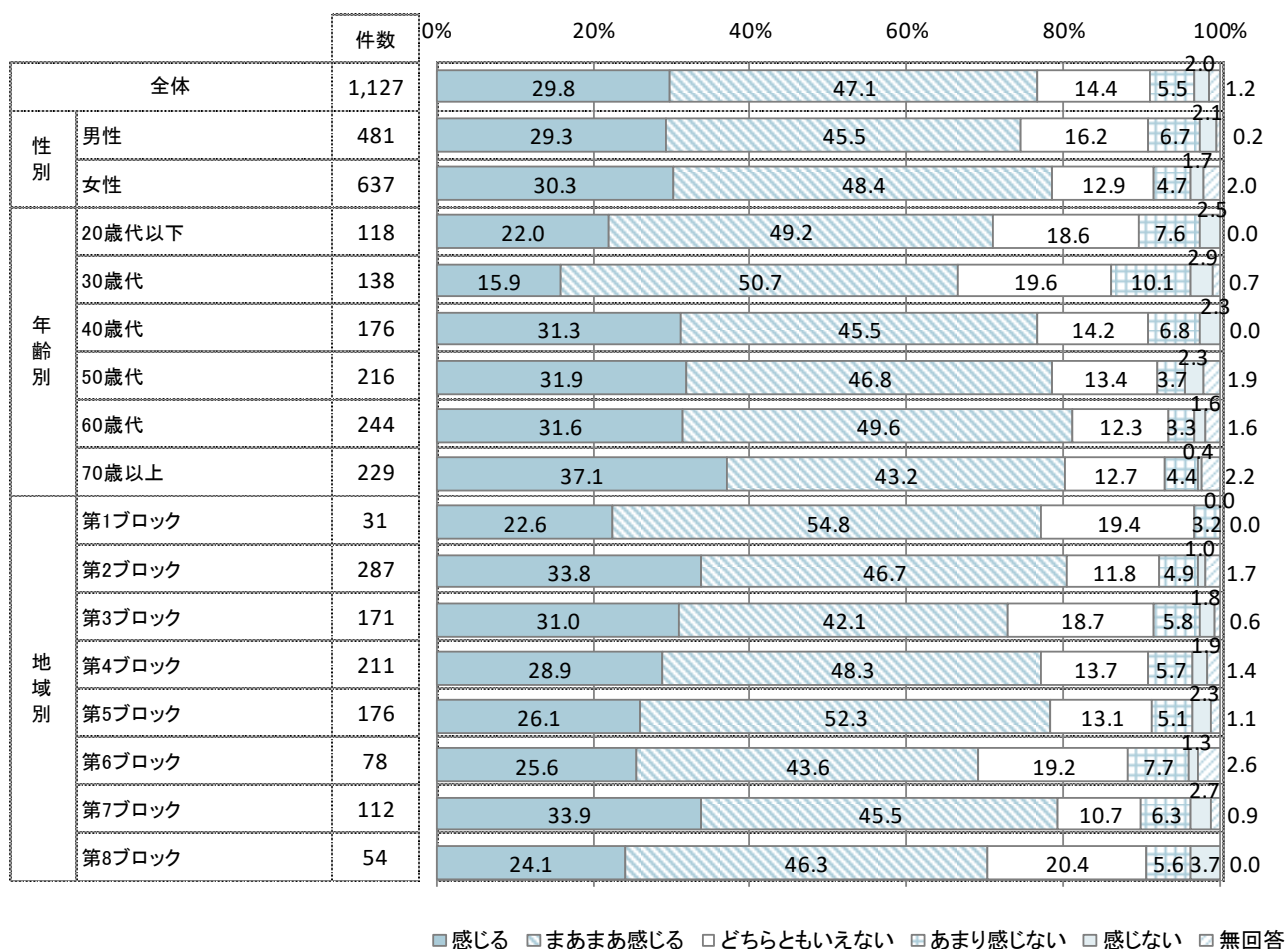


< 地域別 >



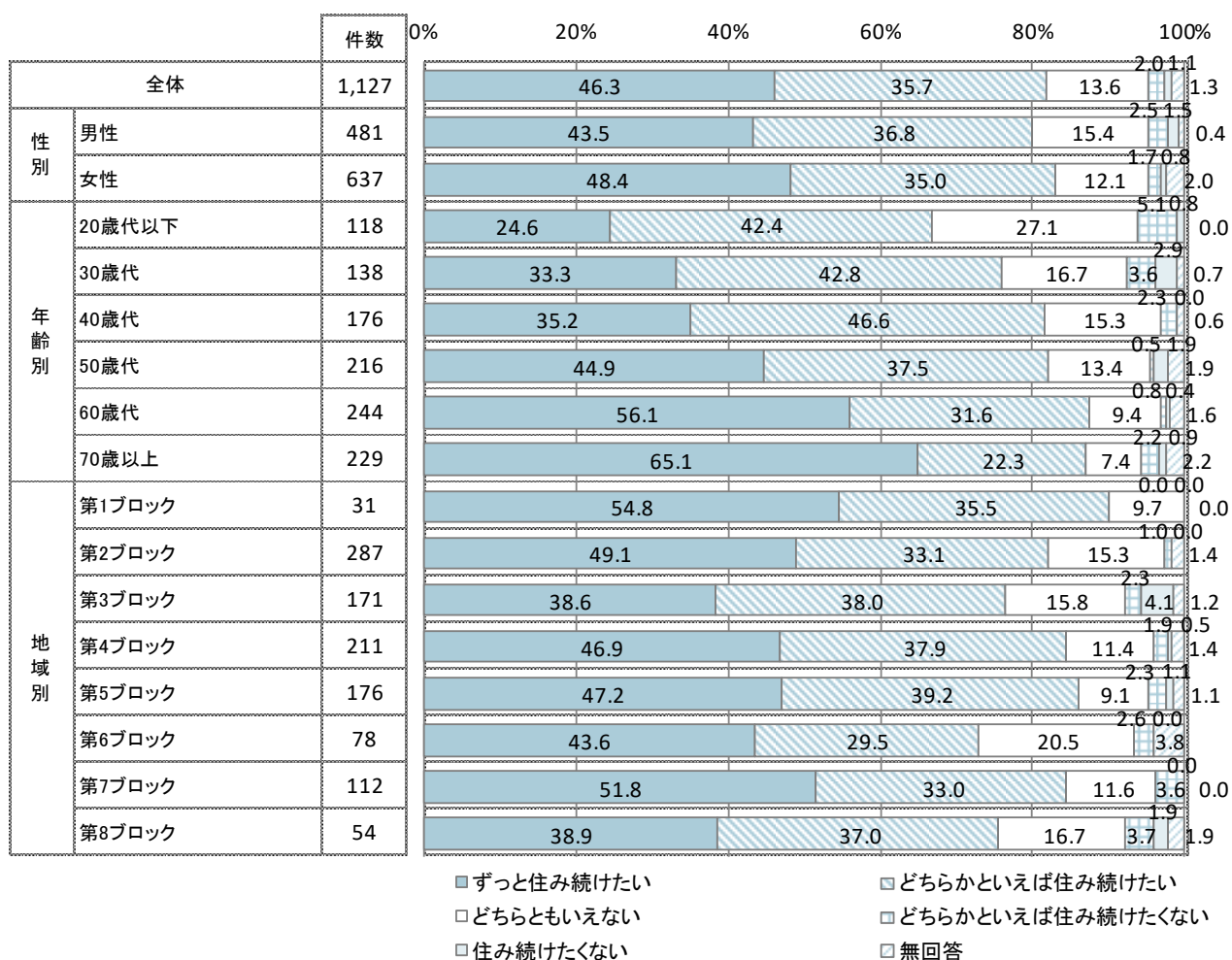
(6) 松山市に愛着や誇りを感じるか

- ・全体結果では、「まあまあ感じる」が47.1%とほぼ半数を占め、次いで「感じる」が29.8%、合わせて76.9%が『感じる』と回答している。「どちらともいえない」は14.4%だった。「あまり感じない」は5.5%、「感じない」は2.0%で、合わせて7.5%が『感じない』と回答した。
- ・性別では、『感じる』は男性74.8%、女性78.7%で、ともに7割台となっている。
- ・年齢別では、30歳代を除いたいずれの年代も『感じる』が7割を超え、60歳代、70歳以上では8割を超えている。30歳代では「まあまあ感じる」が50.7%、「感じる」が15.9%となり、『感じる』は唯一6割台にとどまった。
- ・地域別では、第6ブロックを除くすべての地域で『感じる』が7割を超え、第2ブロックで8割を超えている。



(7) 今後も松山市に住み続けたいか

- ・全体結果では、「ずっと住み続けたい」が 46.3%と半数近くを占め、次いで「どちらかといえば住み続けたい」が 35.7%と続き、合わせて大半の 82.0%が『住み続けたい』と回答している。
- ・前年調査時（H30 年度）との比較では、『住み続けたい』は 4.0 ポイントの減少となったが、そのうち「ずっと住み続けたい」は 2.4 ポイントの減少となり、「どちらかといえば住み続けたい」は 1.6 ポイント減少した。
- ・性別では、『住み続けたい』は男性 80.3%、女性 83.4%で、ともに 8 割以上となっている。
- ・年齢別では、20 歳代以下を除くすべての年代で『住み続けたい』は 7 割を超えている。40 歳代以上では 8 割台となり、60 歳代、70 歳以上では「ずっと住み続けたい」がそれぞれ 56.1%、65.1%と他の年代に比べて高くなっている。一方、20 歳代以下では「どちらともいえない」が 27.1%と他の年代に比べて高くなっている。
- ・地域別では、すべての地域で「ずっと住み続けたい」が最も高く、次いで「どちらかといえば住み続けたい」が続き、すべての地域で『住み続けたい』は 7 割を超えた。特に第 1 ブロックでは 9 割超となった。

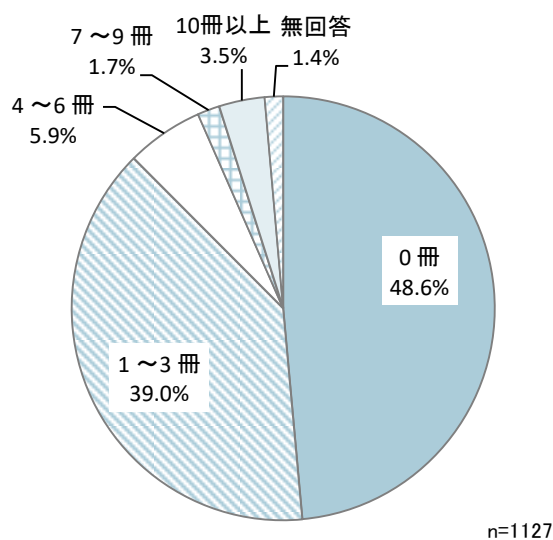


3. 読書活動・図書館利用について

(1) 月に何冊くらいの本を読んでいるか

- ・全体結果では、「0冊」が48.6%と最も高く、次いで「1～3冊」が39.0%、「4～6冊」が5.9%となっている。

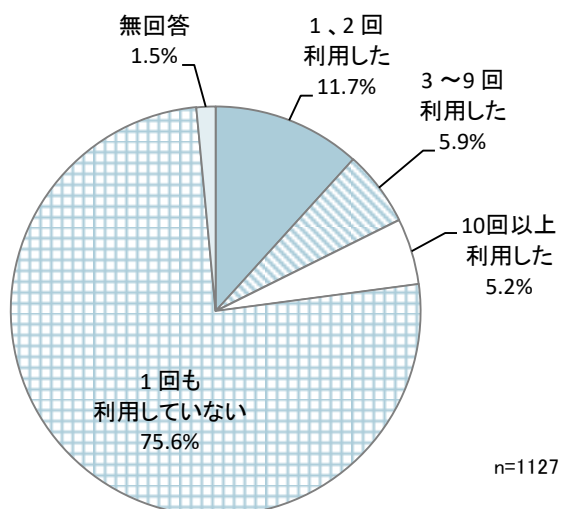
<全体>



(2) 年間にどれくらい松山市立図書館を利用しているか

- ・全体結果では、「1回も利用していない」が75.6%と最も高く、次いで「1、2回利用した」が11.7%、「3～9回利用した」が5.9%となっている。

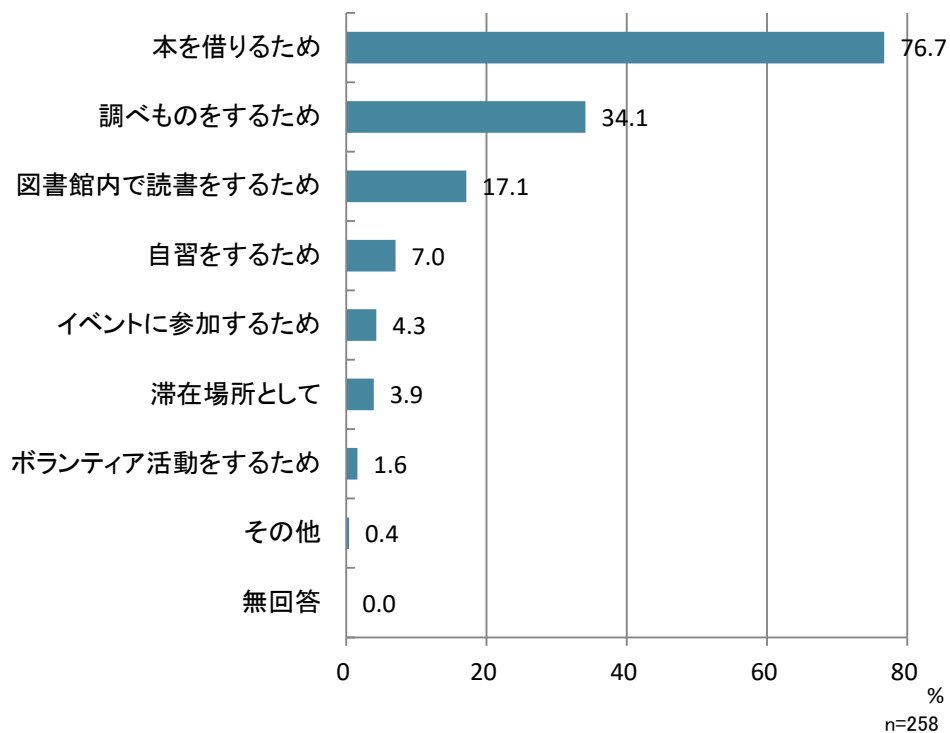
<全体>



(3)どのような目的で市立図書館を利用したか

- ・全体結果では、「本を借りるため」が 76.7%と最も高く、次いで「調べものをするため」が 34.1%、「図書館内で読書をするため」が 17.1%と続いた。

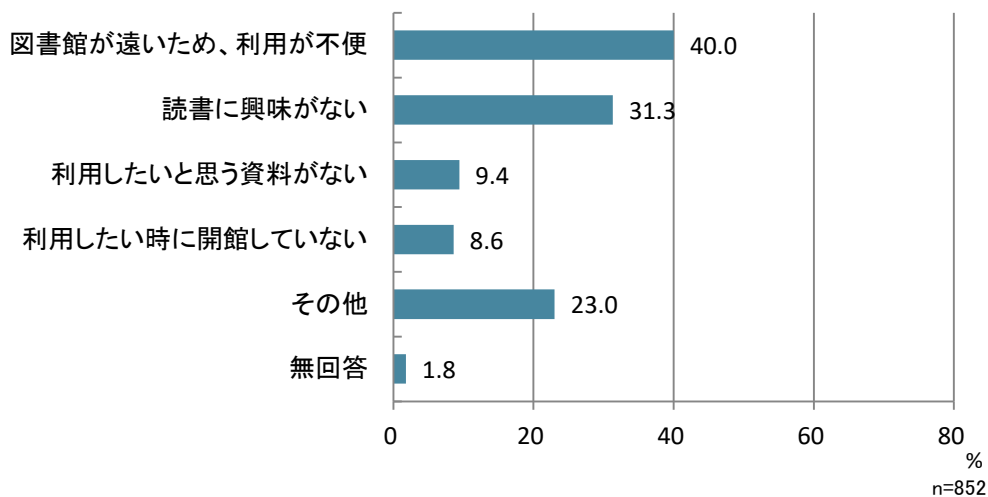
<全体>



(4)利用していない理由は何か

- ・全体結果では、「図書館が遠いため、利用が不便」が 40.0%と最も高く、次いで「読書に興味がない」が 31.3%、「利用したいと思う資料がない」が 9.4%となっている。

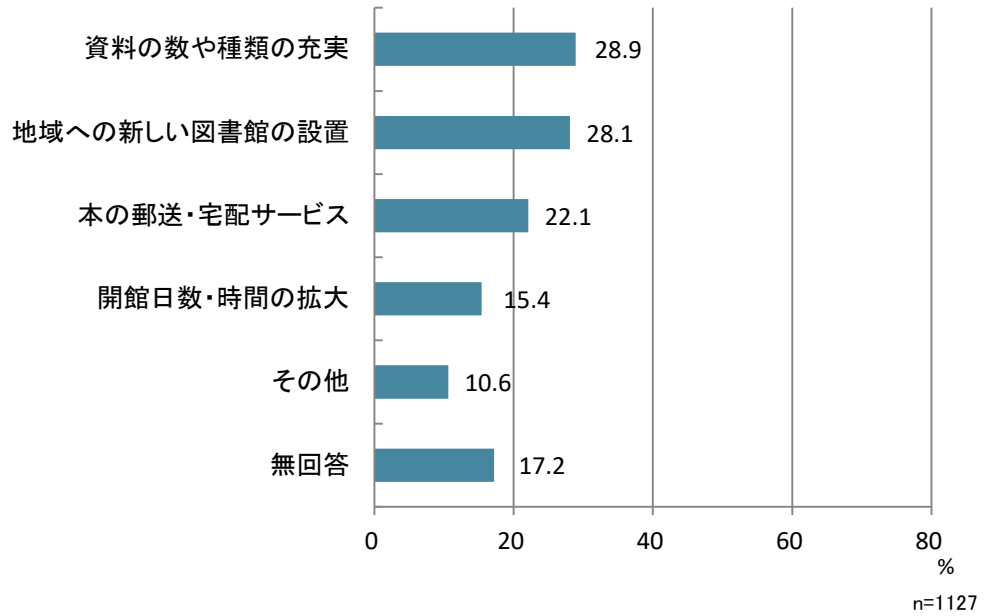
<全体>



(5) 市立図書館について松山市が力を入れるべきこと

- ・全体結果では、「資料の数や種類の充実」が 28.9%と最も高く、次いで「地域への新しい図書館の設置」が 28.1%、「本の郵送・宅配サービス」が 22.1%となっている。

<全体>

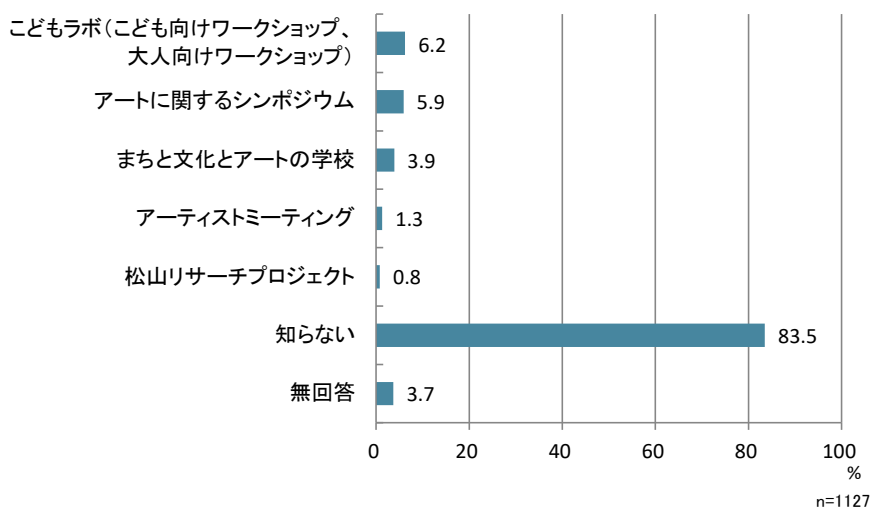


4. 文化芸術について

(1) 知っている「松山ブンカ・ラボ」の取り組み

- ・全体結果では、「こどもラボ（こども向けワークショップ、大人向けワークショップ）」が6.2%、「アートに関するシンポジウム」が5.9%、「まちと文化とアートの学校」が3.9%となった。なお、「知らない」が83.5%と突出して高い。

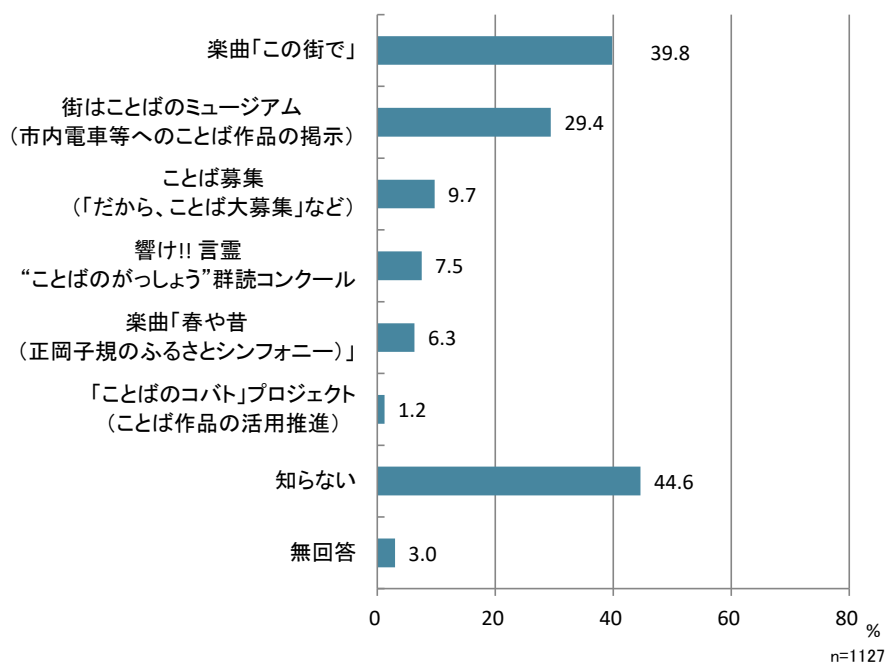
<全体>



(2) 知っている松山市の「ことばのちから」の取り組み

- ・全体結果では、「楽曲『この街で』」が39.8%と最も高く、次いで「街はことばのミュージアム（市内電車等へのことば作品の掲示）」が29.4%、「ことば募集（『だから、ことば大募集』など）」が9.7%と続いた。なお、「知らない」は44.6%と4割を超えた。

<全体>



(3)「文化芸術」「ことばのちから」の取り組みについての意見・提案

<自由記述（抜粋）>

- ・もう少し告知等を発信していくと知名度も上がり皆さんに知っていただけたらと思います。
- ・電車に掲示されていることばをみて、励まされることがあったり、リラックスできることがある。
- ・「ことばのちから」の取組内容と松山市がどうリンクするのか分からない。俳句が盛んだから？なぜ松山市が行っているのか、もう少し分かりやすく周知してもらえれば関心が持てる。
- ・学校で子ども達に体験させてやってほしい。
- ・残念ながら取り組みを知らなかったのもっといろいろな人が見る場（テレビCM、スーパーにチラシを貼るなど）に掲示してはどうでしょうか？
- ・あまり浸透していないと思う。でも、市内電車のラッピング（ことばの作品）は、目にとまり、いいと思う。
- ・俳句の方もテレビでの放送が増え、松山市が取りあげられるようになりました。文化や教育は全国でも上位の方だと思います。
- ・俳句文化の充実。
- ・子どもを通してしか知らない。もう少し大人も参加しやすいとか触れる機会があるといいです。
- ・俳句も素晴らしいですが、人を動かすことばを今後作ってほしいものです。
- ・俳都松山をアピールした取り組みを多く行っていることはとても良いと思う。
- ・松山ブンカ・ラボという取り組みがあるのは知らなかった。TVでわかりやすく宣伝することが必要。職場ですぐに参加できるシステムがあればいいと思った。参加方法が不明。
- ・言葉によって勇気づけられたり元気をもらう事が出来る、前向きなことばを皆が発して、（元気）活気のある街になってもらいたい。
- ・選ばれた言葉はその1年の主役にして、目立つイベントや役所の垂れ幕、その年の市職員の名刺などに使う、アピールする、毎年を目玉にする。
- ・「ことばのちから」の取り組みは、日常何気なく使っていた言葉を見直す機会を与えてくれて、反省と共に温かい言葉の心地良さを実感できます。今後もしっかりPRしながら、「ことばのちから」を浸透させたいです。
- ・城山公園でことばのTシャツアートイベントをする（Tシャツに好きなことばをのせて展示する）。
- ・あまり魅力を感じない。また、参加する時間がないです。参加している方の年齢層が高いイメージがする。
- ・音楽、美術の庶民への意識の定着を図る催物や活動をもっと多く行なって欲しい。演奏会、展覧会などを。それぞれの分野のプロを招聘して。
- ・建物の壁とかに絵を描いて何か表現をする（文字なども）。

5. 防災対策について

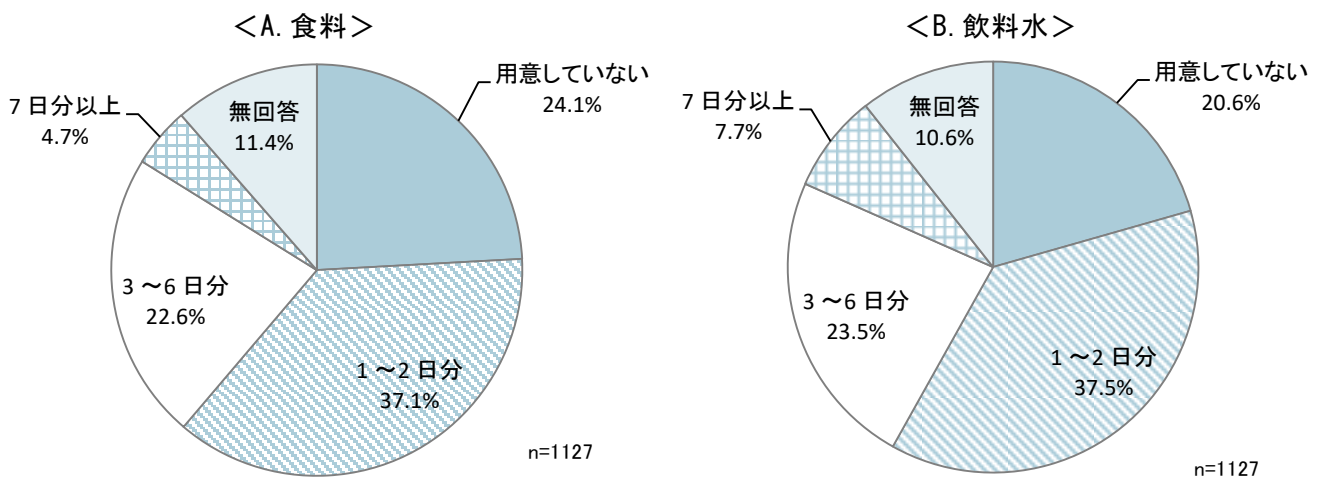
(1) 災害に備えた家庭内での食料と飲料水の備蓄状況

<A. 食料>

- ・全体結果では、「1～2日分」が37.1%と最も高く、次いで「用意していない」が24.1%、「3～6日分」が22.6%となっている。なお、「7日分以上」は4.7%となっている。

<B. 飲料水>

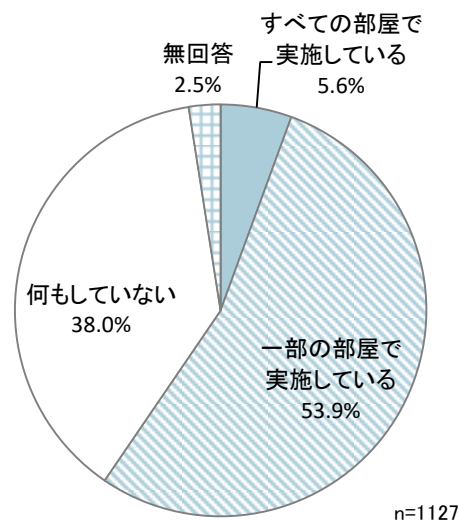
- ・全体結果では、「1～2日分」が37.5%と最も高く、次いで「3～6日分」が23.5%、「用意していない」が20.6%となっている。なお、「7日分以上」は7.7%となっている。



(2) 災害に備え、家具類の固定や落下防止策を行っているか

- ・全体結果では、「一部の部屋で実施している」が53.9%と最も高く、次いで「何もしていない」が38.0%、「すべての部屋で実施している」が5.6%となっている。

<全体>



(3) 防災・災害の情報収集手段

<A. 情報収集に使ったことがある>

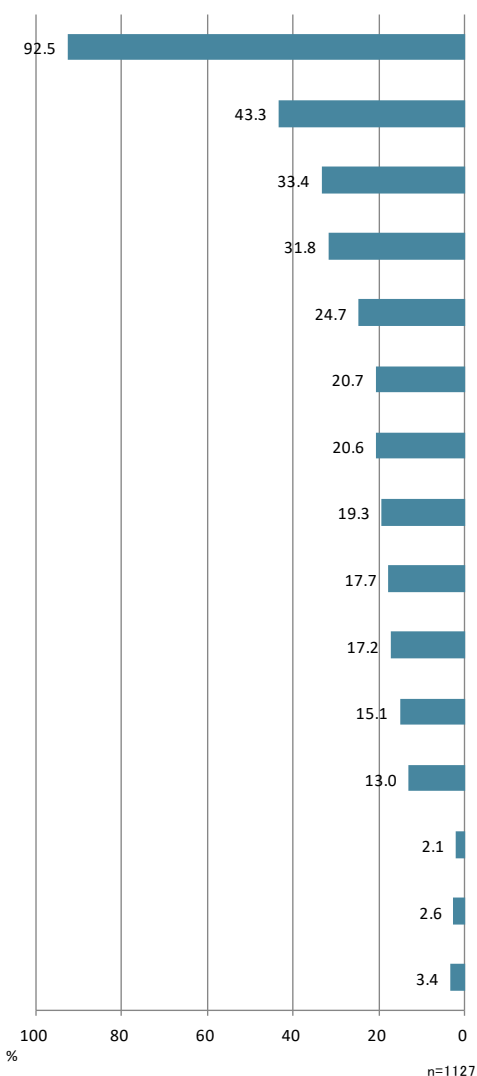
- ・全体結果では、「テレビ」が 92.5%と最も高く、次いで「町内や地区の放送（屋外スピーカー）」が 43.3%、「テレビのデータ放送（dボタン）」が 33.4%と続いた。

<B. 情報収集のため、特によく使用する>

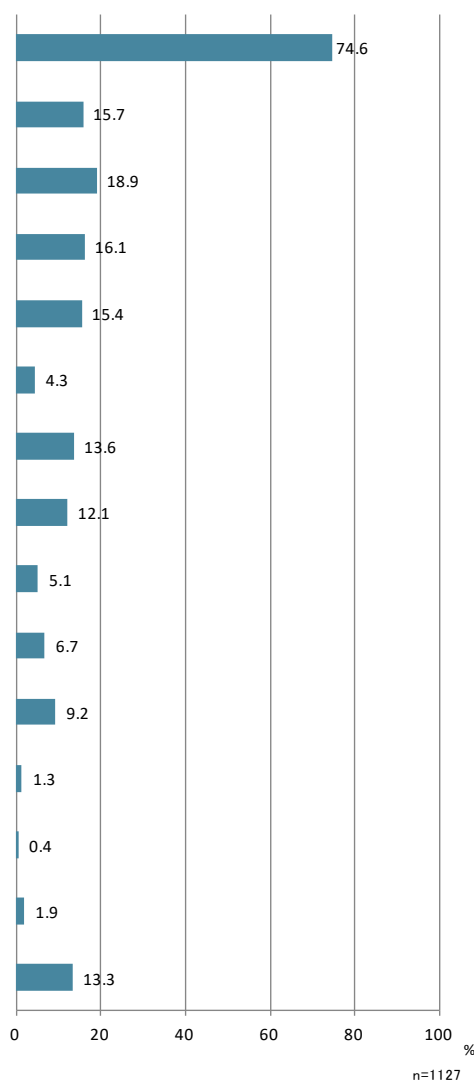
- ・全体結果では、「テレビ」が 74.6%と最も高く、次いで「テレビのデータ放送（dボタン）」が 18.9%、「ラジオ」が 16.1%となっている。

<全体>

【A.使ったことがある】



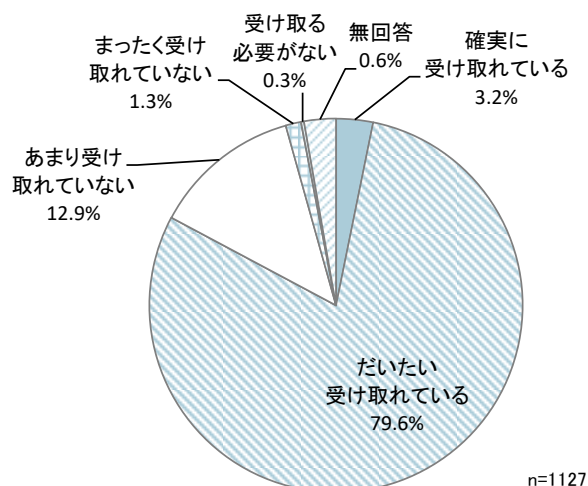
【B.特に利用している】



(4) 防災・災害情報を受け取れていると感じるか

- ・全体結果では、「だいたい受け取れている」が79.6%と最も高く、次いで「あまり受け取れていない」が12.9%、「確実に受け取れている」が3.2%となった。「確実に受け取れている」と「だいたい受け取れている」を合わせると8割以上を占めている。

<全体>



(5) どのような手段があれば、防災・災害情報を受け取れると思うか

<自由回答（抜粋）>

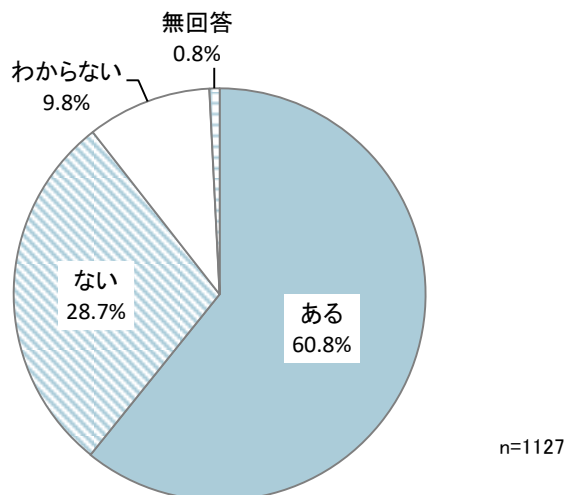
- ・町内会の直接の声かけ等。
- ・中小河川の水量とか、内水危険とか、住んでいる場所が今どんな状況の中にあるのか、市のホームページで刻々と更新してほしい。
- ・広報車両からの放送。ゆっくりと聞き取りやすい放送で回ってほしい。固定の町内のスピーカー放送は音（声）がこだまして、何を言っているのかわからない時の方が多い。
- ・携帯電話に大雨の土砂災害予測や川の氾濫の予測を、もっとわかりやすく表示してほしい。
- ・ポストに情報を記した物を入れてあるとよい。
- ・スマホや携帯電話へのメールサービス。
- ・もっとリアルタイムな情報を、自分の地域だけの情報に絞って入手できるような情報サイト（もちろん公共のもの、情報源が信頼できるもの）。
- ・災害時被災地は電波障害が起きていた。錯綜する情報（救援物資やボランティア）をいかに行政が的確迅速に伝えられるか普段からシミュレーションが必要。特に個人のSNS情報に左右され、情報が的確でない。
- ・防災行政無線が全然聞き取れない。もっと充実させてもらいたい。
- ・屋外スピーカーを充実させてほしい。
- ・TVのニュース特集や無料発刊されている市のチラシなど。
- ・LINE等で情報を送ってほしい。
- ・同じ地区の人と情報交換できるようなアプリ（管理者は行政）で最新の情報を得ることができればと思う。行政の情報を見ながらチャットのような形でも皆で意見を記入したり質問したりできれば、防災に対する意識も高まって情報を得やすくなると思う。
- ・市の情報のアプリ。
- ・スマホを使って簡単に情報収集できる手段があれば受け取りやすい。
- ・教育現場や職場での案内、又は各家庭への防災・災害情報の郵送。

6. 墓地に関することについて

(1) 先祖や親のお墓を守る立場にあるか

- ・全体結果では、「ある」が60.8%、「ない」が28.7%となっており、「ある」が「ない」を大きく上回った。

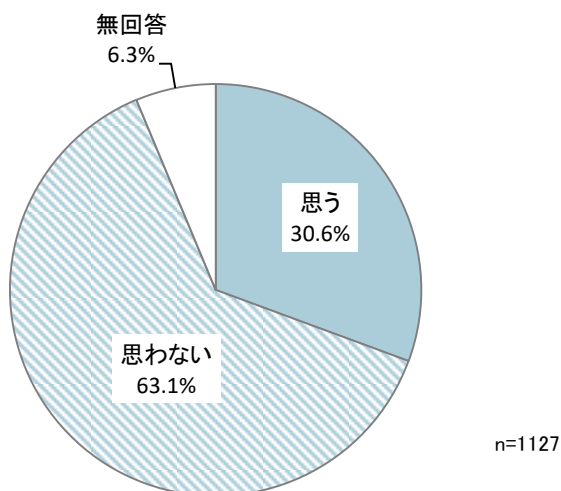
<全体>



(2) 墓地を購入したいと思うか

- ・全体結果では、「思う」が30.6%、「思わない」が63.1%となっており、「思わない」が「思う」を大きく上回った。

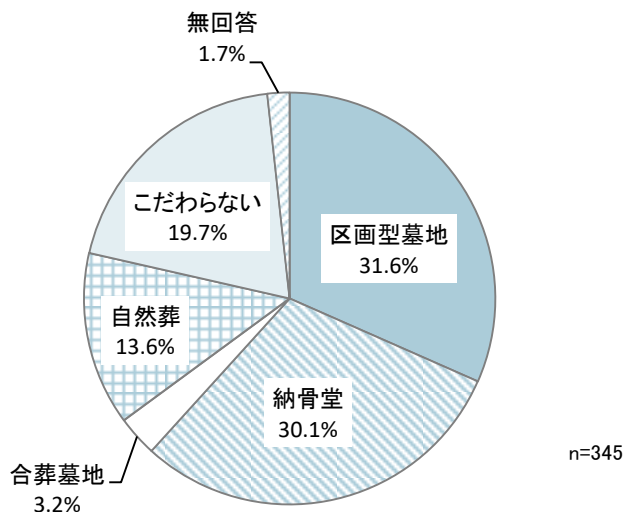
<全体>



(3)どのような形態の埋葬を希望しているか

- ・全体結果では、「区画型墓地」が 31.6%と最も高く、次いで「納骨堂」が 30.1%、「自然葬」が 13.6%となった。なお、「こだわらない」は 19.7%となっている。

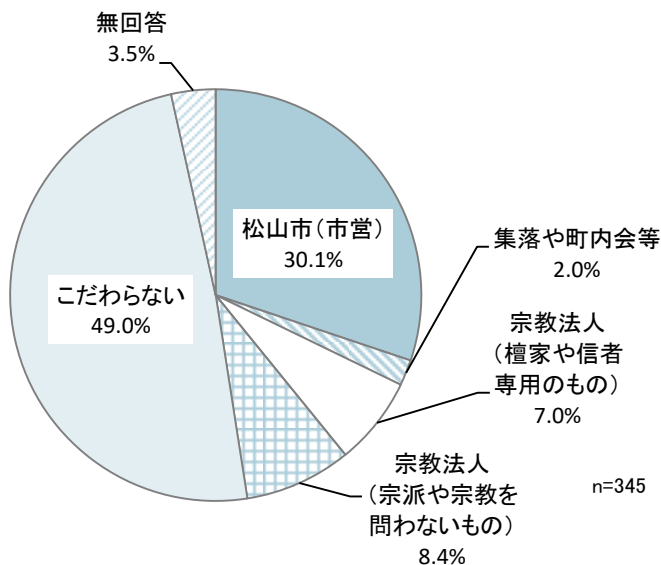
<全体>



(4)どのような運営主体の墓地を希望しているか

- ・全体結果では、「松山市（市営）」が 30.1%で最も高く、次いで「宗教法人（宗派や宗教を問わないもの）」が 8.4%、「宗教法人（檀家や信者専用のもの）」が 7.0%となっている。なお、「こだわらない」は 49.0%と半数近くに上った。

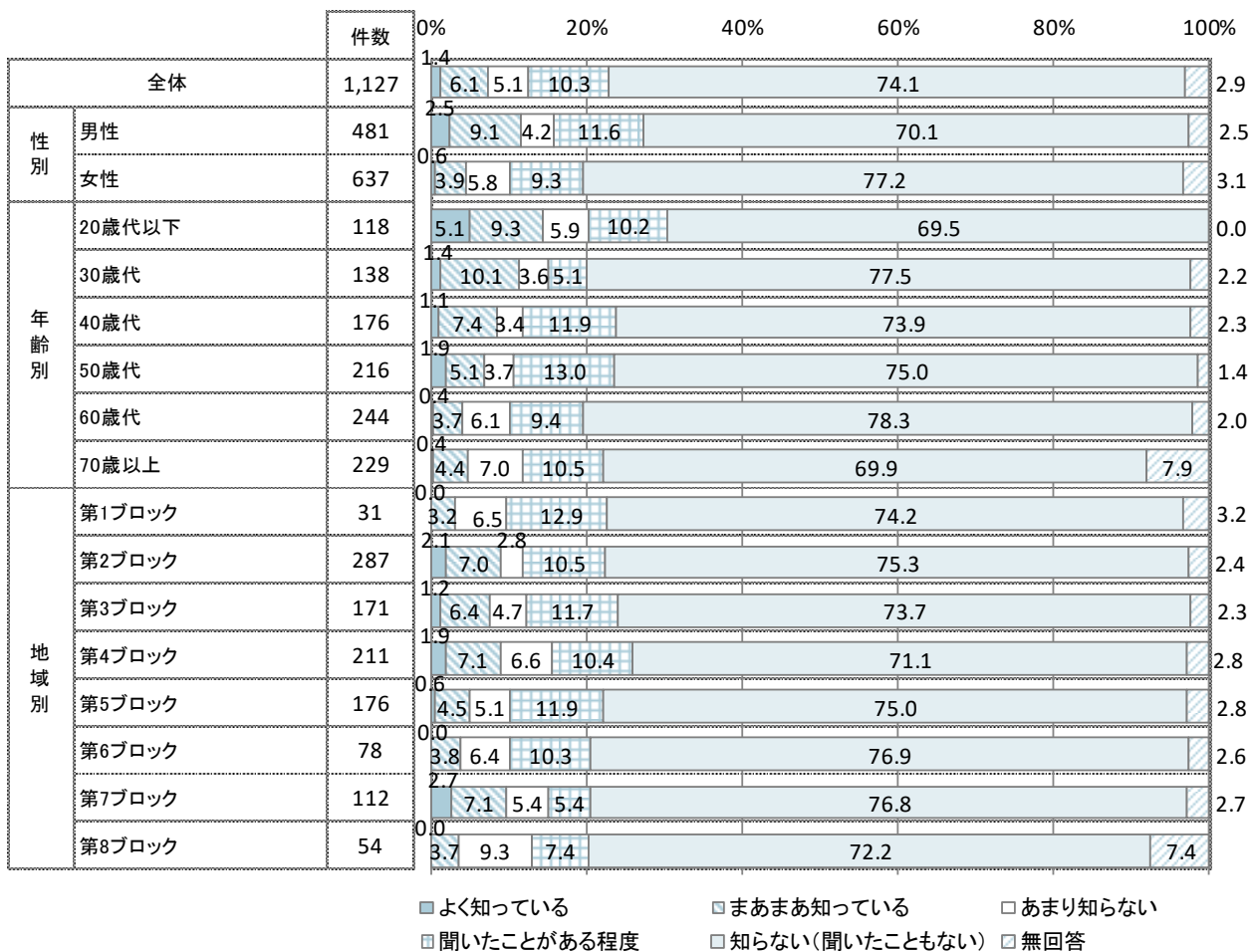
<全体>



7. SDGs(エスディーゼーズ)について

(1) SDGsについて知っているか

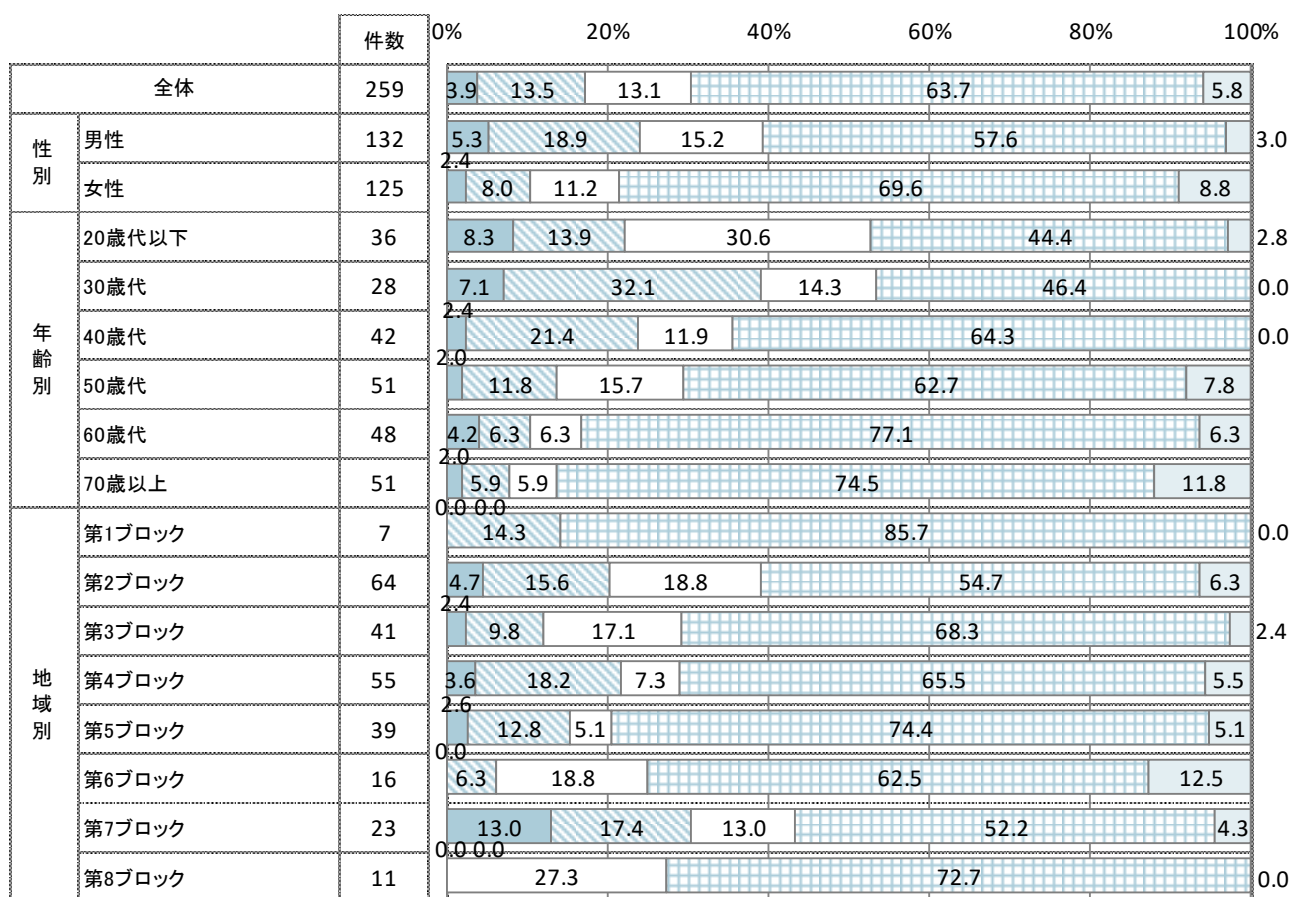
- ・全体結果では、「知らない(聞いたこともない)」が 74.1%と最も高く、次いで「聞いたことがある程度」10.3%、「まあまあ知っている」6.1%と続いた。「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』は7.5%となっている。
- ・性別では、男女ともに「知らない(聞いたこともない)」が最も高いものの、男性 70.1%、女性 77.2%となり、男性が女性を 7.1 ポイント下回った。次いで男性では「聞いたことがある程度」「まあまあ知っている」、女性では「聞いたことがある程度」「あまり知らない」と続いた。
- ・年齢別では、すべての年代で「知らない(聞いたこともない)」が最も高く、7 割弱から 8 割弱を占めている。次いで 30 歳代では「まあまあ知っている」「聞いたことがある程度」の順で続き、20 歳代以下、40 歳代、50 歳代では「聞いたことがある程度」「まあまあ知っている」、60 歳代、70 歳以上では「聞いたことがある程度」「あまり知らない」の順となっている。
- ・地域別では、すべての地域で「知らない(聞いたこともない)」が 7 割台を占め、最も高くなっている。「よく知っている」と「まあまあ知っている」を合わせた『知っている』は第 7 ブロックで 9.8%と最も高く、次いで第 2 ブロックで 9.1%、第 4 ブロックで 9.0%と続いている。



(2) 身近でSDGsに取り組んでいる事例を知っているか

※ (1) 「SDGsについて知っているか」で「よく知っている」「まあまあ知っている」「あまり知らない」「聞いたことがある程度」のいずれかを選択した場合のみ集計した。

- ・全体結果では、「知らない」が63.7%と6割以上を占め、次いで「自分が勤務する会社や団体で取り組んでいるのを知っている」が13.5%、「自分が勤務する会社や団体以外で取り組んでいる事例を知っている」が13.1%と続いた。
- ・性別では、「知らない」が男性57.6%、女性69.6%で、男性が女性を12.0ポイント下回っている。
- ・年齢別では、「知らない」は20歳代以下で44.4%と最も低く、年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向にある。
- ・地域別では、すべての地域で「知らない」が最も高いものの、最も高い第1ブロックでは85.7%、最も低い第7ブロックでは52.2%となっている。また、第7ブロックでは「自分がSDGsに関する活動をしている」が13.0%と唯一1割を超えている。



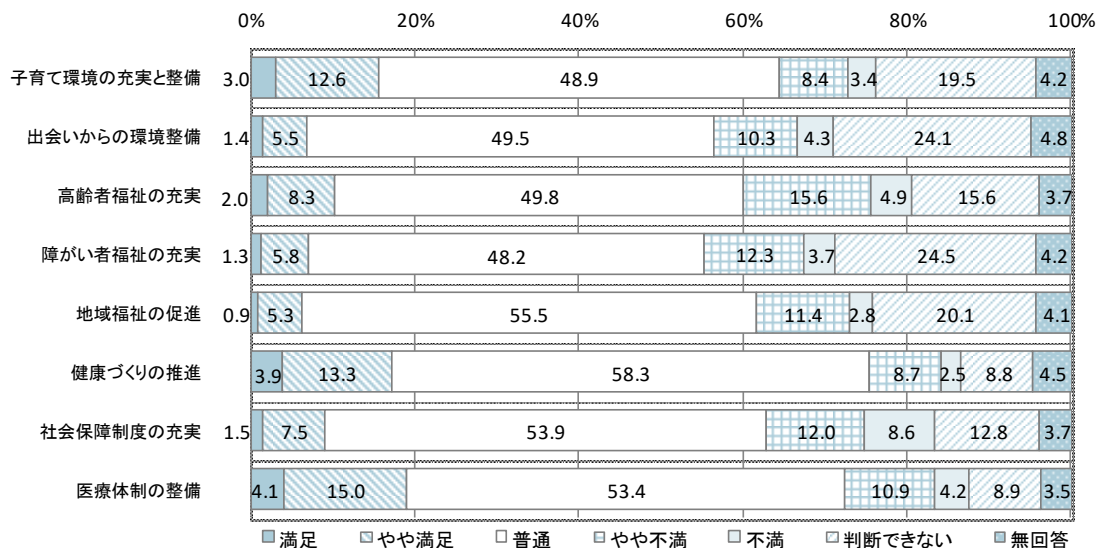
- 自分がSDGsに関する活動をしている
- 自分が勤務する会社や団体で取り組んでいるのを知っている
- 自分が勤務する会社や団体以外で取り組んでいる事例を知っている
- 知らない
- 無回答

8. 市の取り組んでいる施策の満足度・重要度について

(1) 健康・福祉に関する施策

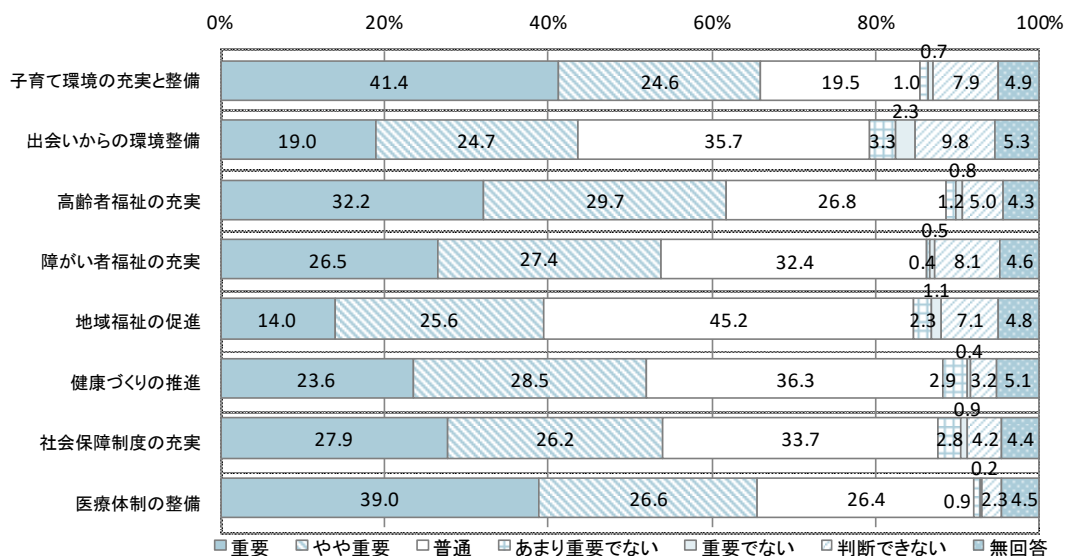
<満足度>

- ・「健康・福祉」に関するすべての施策で、満足度は「普通」であるとの評価が、4割～5割台を占めている。
- ・「判断できない」は「障がい者福祉の充実」で24.5%と最も高い。
- ・『満足』（「満足」+「やや満足」）と評価の高い施策の上位3項目は、「医療体制の整備」（19.1%）、「健康づくりの推進」（17.2%）、「子育て環境の充実と整備」（15.6%）である。
- ・一方で、『不満』（「不満」+「やや不満」）と評価の低い施策の上位3項目は、「社会保障制度の充実」（20.6%）、「高齢者福祉の充実」（20.5%）、「障がい者福祉の充実」（16.0%）である。



<重要度>

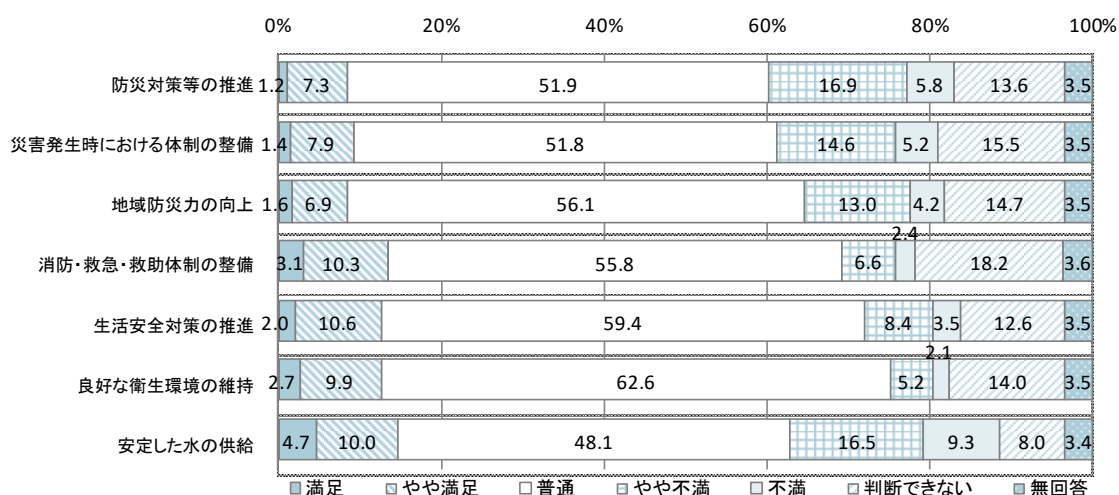
- ・「健康・福祉」に関する施策のうち、『重要』（「重要」+「やや重要」）と考えられている施策の上位3項目は、「子育て環境の充実と整備」（66.0%）、「医療体制の整備」（65.6%）、「高齢者福祉の充実」（61.9%）である。
- ・「出会いからの環境整備」（43.7%）及び「地域福祉の促進」（39.6%）では、『重要』（「重要」+「やや重要」）と考えている人が半数を下回っている。



(2)安全・安心に関する施策

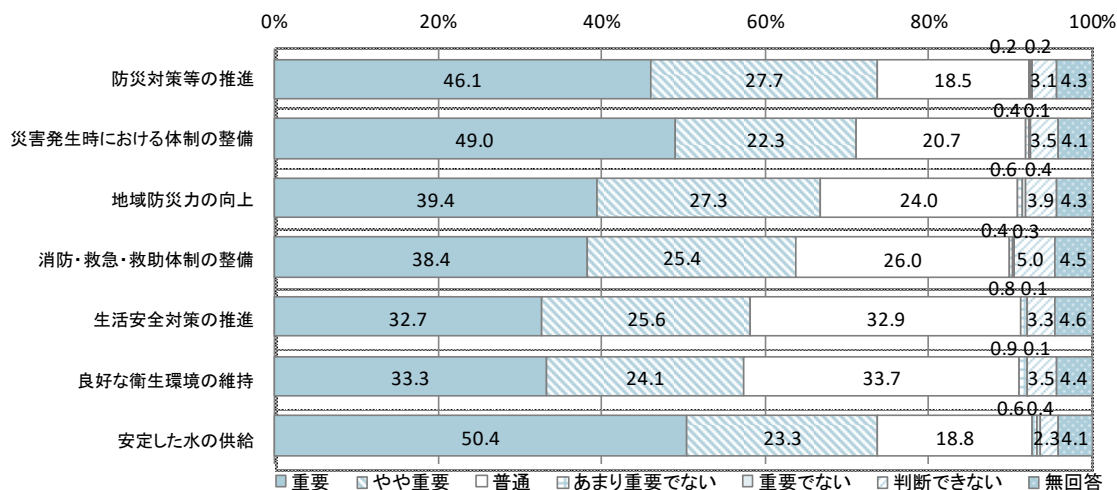
<満足度>

- ・「安全・安心」に関するすべての施策で、満足度は「普通」であるとの評価が、4割半ば以上を占めている。
- ・「判断できない」は「消防・救急・救助体制の整備」で18.2%と最も高い。
- ・『満足』（「満足」+「やや満足」）と評価の高い施策の上位3項目は、「安定した水の供給」（14.7%）、「消防・救急・救助体制の整備」（13.4%）、「生活安全対策の推進」及び「良好な衛生環境の維持」（同率12.6%）である。
- ・一方で、『不満』（「不満」+「やや不満」）と評価の低い施策の上位3項目は、「安定した水の供給」（25.8%）、「防災対策等の推進」（22.7%）、「災害発生時における体制の整備」（19.8%）である。



<重要度>

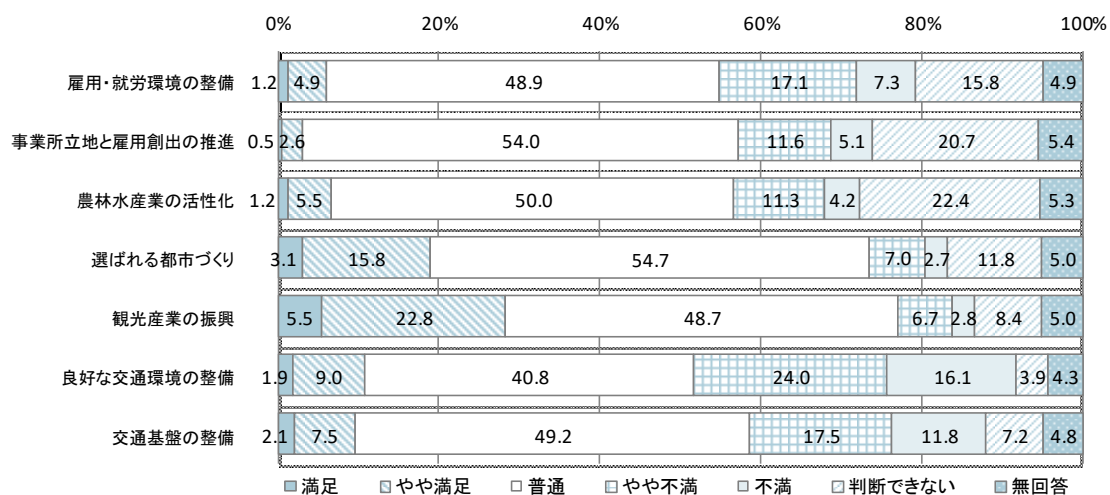
- ・「安全・安心」に関する施策のうち、『重要』（「重要」+「やや重要」）と考えられている施策の上位3項目は、「防災対策等の推進」（73.8%）、「安定した水の供給」（73.7%）、「災害発生時における体制の整備」（71.3%）である。
- ・また、すべての項目で、『重要』（「重要」+「やや重要」）と考えている人が過半数を占めている。



(3) 産業・交流に関する施策

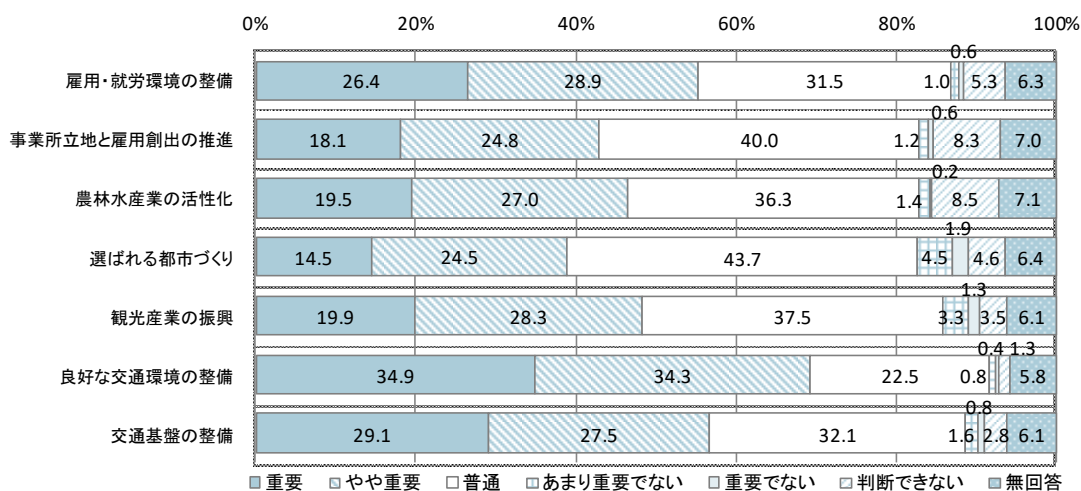
<満足度>

- ・「産業・交流」に関するすべての施策で、満足度は「普通」であるとの評価が、4割から5割半ばを占めている。
- ・「判断できない」は「農林水産業の活性化」で22.4%と最も高い。
- ・『満足』（「満足」+「やや満足」）と評価の高い施策の上位3項目は、「観光産業の振興」（28.3%）、「選ばれる都市づくり」（18.9%）、「良好な交通環境の整備」（10.9%）が続いている。
- ・一方で、『不満』（「不満」+「やや不満」）と評価の低い施策の上位3項目は、「良好な交通環境の整備」（40.1%）、「交通基盤の整備」（29.3%）、「雇用・就労環境の整備」（24.4%）である。



<重要度>

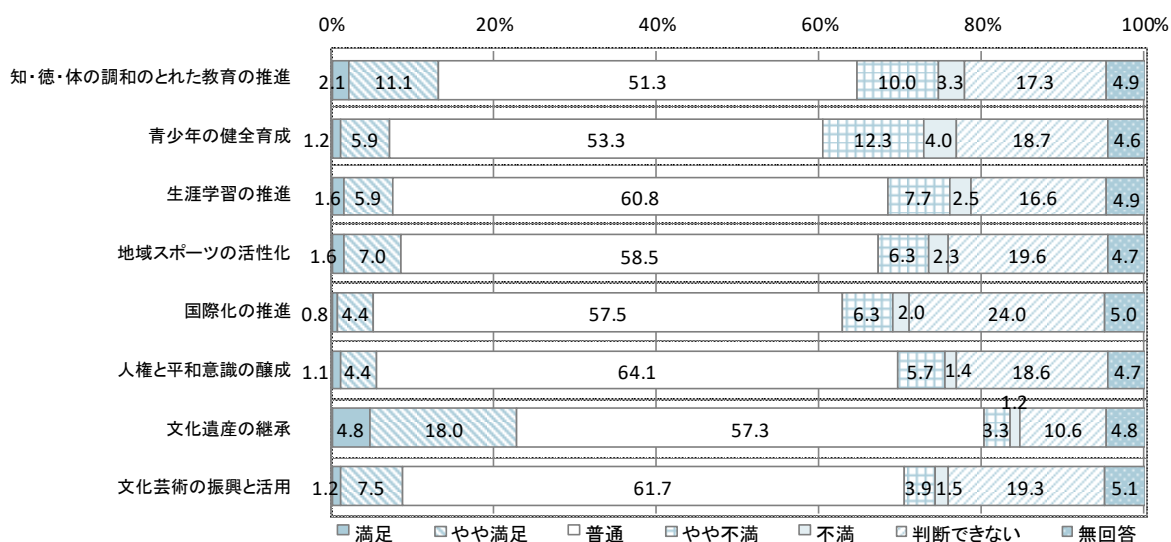
- ・「産業・交流」に関する施策のうち、『重要』（「重要」+「やや重要」）と考えられている施策の上位3項目は、「良好な交通環境の整備」（69.2%）、「交通基盤の整備」（56.6%）、「雇用・就労環境の整備」（55.3%）である。
- ・「観光産業の振興」（48.2%）、「農林水産業の活性化」（46.5%）、「事業所立地と雇用創出の推進」（42.9%）でも、『重要』（「重要」+「やや重要」）と考えている人が4割以上となっている。



(4)教育・文化に関する施策

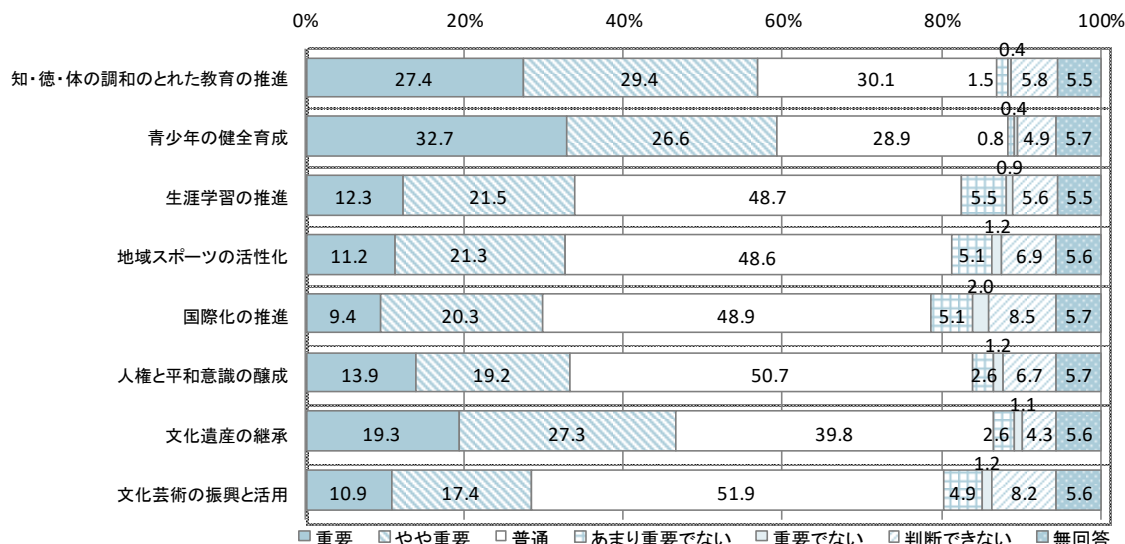
<満足度>

- ・「教育・文化」に関するすべての施策で、満足度は「普通」であるとの評価が、5割以上となっている。
- ・「判断できない」は「国際化の推進」で24.0%と最も高い。
- ・『満足』（「満足」+「やや満足」）と評価の高い施策の上位3項目は、「文化遺産の継承」（22.8%）、「知・徳・体の調和のとれた教育の推進」（13.2%）、「文化芸術の振興と活用」（8.7%）が続いている。
- ・一方で、『不満』（「不満」+「やや不満」）と評価の低い施策の上位3項目は、「青少年の健全育成」（16.3%）、「知・徳・体の調和のとれた教育の推進」（13.3%）、「生涯学習の推進」（10.2%）である。



<重要度>

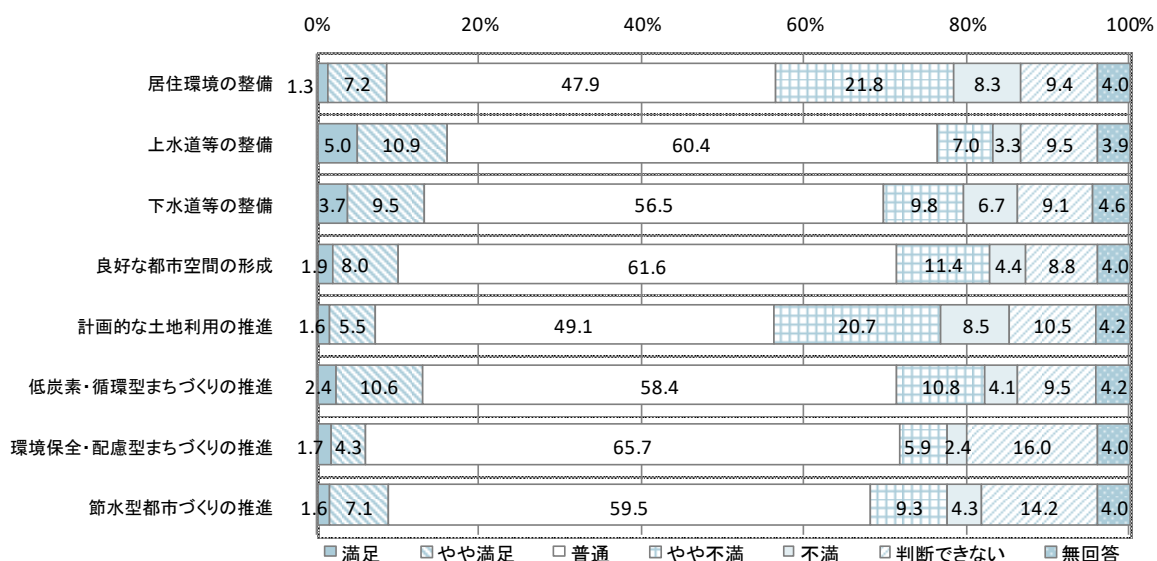
- ・「教育・文化」に関する施策のうち、『重要』（「重要」+「やや重要」）と考えられている施策の上位3項目は、「青少年の健全育成」（59.3%）及び「知・徳・体の調和のとれた教育の推進」（56.8%）がやや突出し、続いて「文化遺産の継承」（46.6%）となっている。
- ・上位3項目以外の施策については、『重要』（「重要」+「やや重要」）と考えている人が3割半ばを下回っている。



(5) 環境・都市に関する施策

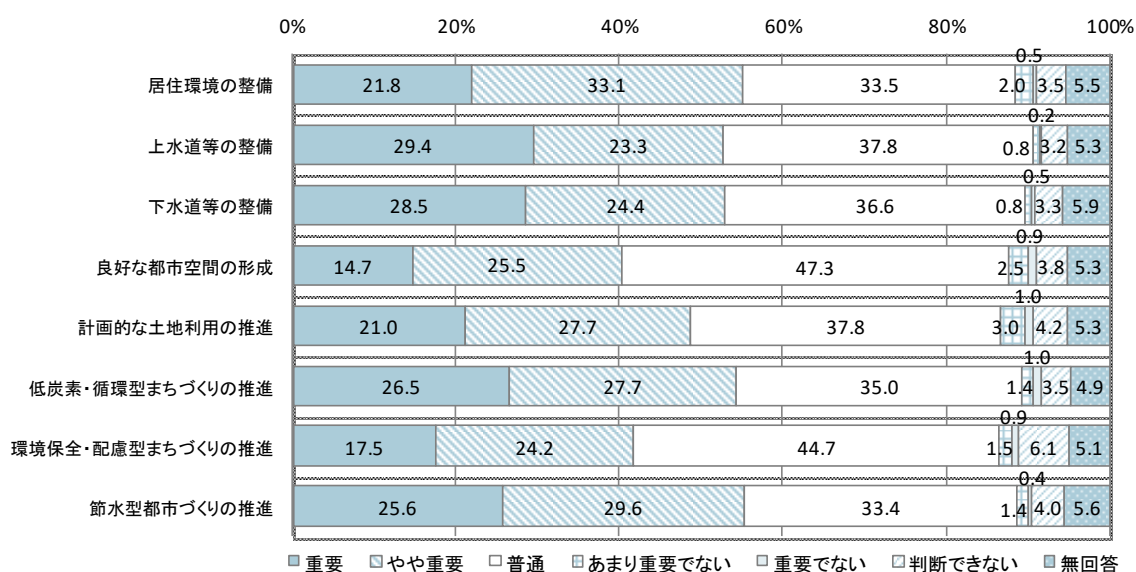
<満足度>

- 「環境・都市」に関するすべての施策で、満足度は「普通」であるとの評価が、4割半ば以上となっている。
- 「判断できない」は「環境保全・配慮型まちづくりの推進」で16.0%と最も高い。
- 『満足』（「満足」+「やや満足」）と評価の高い施策の上位3項目は、「上水道等の整備」（15.9%）、「下水道等の整備」（13.2%）、「低炭素・循環型まちづくりの推進」（13.0%）である。
- 一方で、『不満』（「不満」+「やや不満」）と評価の低い施策の上位3項目は、「居住環境の整備」（30.1%）、「計画的な土地利用の推進」（29.2%）、「下水道等の整備」（16.5%）である。



<重要度>

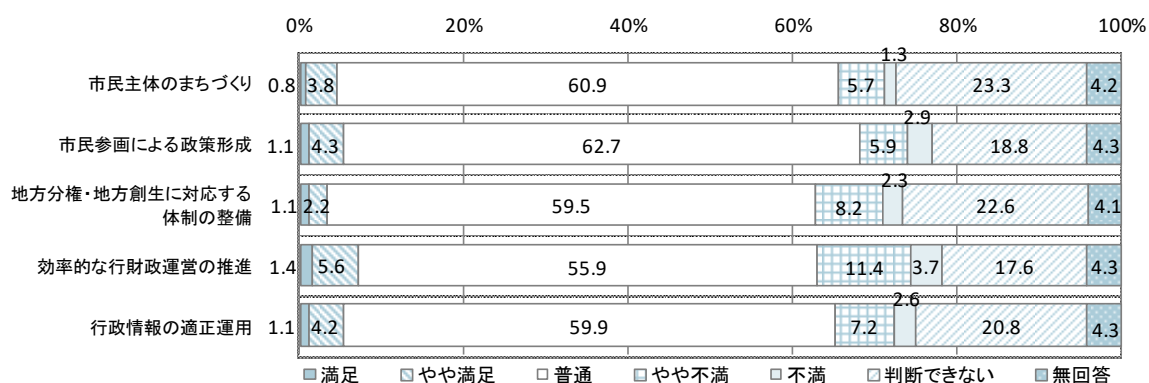
- 「環境・都市」に関する施策のうち、『重要』（「重要」+「やや重要」）と考えられている施策の上位3項目は、「節水型都市づくりの推進」（55.2%）、「居住環境の整備」（54.9%）、「低炭素・循環型まちづくりの推進」（54.2%）である。
- 「計画的な土地利用の推進」（48.7%）、「環境保全・配慮型まちづくりの推進」（41.7%）、「良好な都市空間の形成」（40.2%）では、『重要』（「重要」+「やや重要」）と考えている人が半数を下回っている。



(6) 自治・行政に関する施策

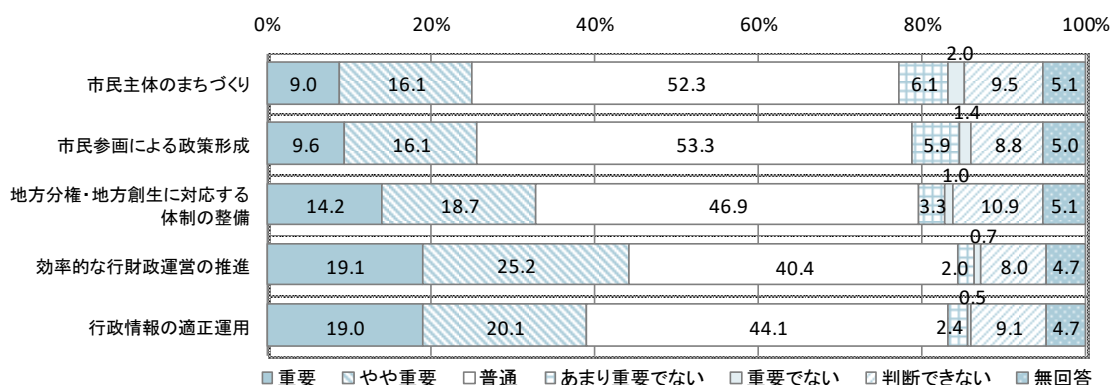
<満足度>

- 「自治・行政」に関するすべての施策で、満足度は「普通」であるとの評価が、5割半ば以上を占めている。
- 「判断できない」は「市民主体のまちづくり」で23.3%と最も高い。
- 『満足』（「満足」+「やや満足」）と評価の高い施策の上位3項目は、「効率的な行財政運営の推進」（7.0%）、「市民参画による政策形成」（5.4%）、「行政情報の適正運用」（5.3%）が続いている。
- 一方で、『不満』（「不満」+「やや不満」）と評価の低い施策の上位3項目は、「効率的な行財政運営の推進」（15.1%）がやや高く、「地方分権・地方創生に対応する体制の整備」（10.5%）、「行政情報の適正運用」（9.8%）と続いている。



<重要度>

- 「自治・行政」に関する施策のうち、『重要』（「重要」+「やや重要」）と考えられている施策の上位3項目は、「効率的な行財政運営の推進」（44.3%）、「行政情報の適正運用」（39.1%）、「地方分権・地方創生に対応する体制の整備」（32.9%）である。
- また、すべての施策で、『重要』（「重要」+「やや重要」）と考えている人が半数を下回っている。



Ⅲ 調査分析

1. 満足度・重要度

本章では、第6次松山市総合計画の施策ごとの満足度・重要度について、回答選択肢1（「不満」、「重要でない」）から回答選択肢5（「満足」、「重要」）まで、それぞれ1点から5点を与え、加重平均を算出した。なお、回答選択肢0「判断できない」及び「無回答」のサンプルは集計対象から除外している。また、得点については小数点第3位を四捨五入しているため、同じ値で表示されていても順位が異なる場合がある。

(1) 本市が実施している施策ごとの評価

全体集計

<満足度> 全項目平均得点【R1年度】2.91 【H30年度】2.90 【H29年度】2.87

**得点が普通（3.00）を下回り、比較的不満のある施策が多い（43項目中33項目）。
分野ごとの平均では、【教育・文化】分野が高く、【産業・交流】分野が低くなっている。**

- ・満足度得点についてみると、松山市で実施している施策全43項目のうち、3.00（普通）以上のプラス評価の項目は10項目、3.00未満のマイナス評価の項目は33項目となっている。
- ・得点は、最高3.26から最低2.53の範囲（得点差0.73）に分布しており、全項目の平均得点は2.91と、3.00（普通）を下回りマイナス評価となっている。
- ・満足度の高い施策は、上位から、1位「文化遺産の継承(④-7)」(3.26)、2位「観光産業の振興(③-5)」(3.25)、3位「選ばれる都市づくり(③-4)」(3.12)、4位「健康づくりの推進(①-6)」(3.09)、5位「上水道等の整備(⑤-2)」(3.08)となっている。
- ・満足度の低い施策は、下位から、43位「良好な交通環境の整備(③-6)」(2.53)、42位「計画的な土地利用の推進(⑤-5)」(2.66)、41位「交通基盤の整備(③-7)」(2.67)、40位「居住環境の整備(⑤-1)」(2.67)、39位「雇用・就労環境の整備(③-1)」(2.69)となっている。

<重要度> 全項目平均得点【R1年度】3.79 【H30年度】3.77 【H29年度】3.76

**全項目で得点が普通（3.00）を上回り、すべての施策が重要視されている。
分野ごとの平均では、【安全・安心】分野が高く、【自治・行政】分野が低くなっている。**

- ・重要度得点についてみると、松山市で実施している施策全43項目すべてが3.00（普通）以上であり、すべての項目が重要であると評価されている。そのうち、4.00（やや重要）以上の項目は、10項目である。
- ・得点は、最高4.31から最低3.28の範囲（得点差1.03）に分布しており、全項目の平均得点は、3.79となっている。
- ・重要度の高い施策は、上位から、1位「安定した水の供給(②-7)」(4.31)、「災害発生時における体制の整備(②-2)」(4.30)、3位「防災対策等の推進(②-1)」(4.29)、4位「子育て環境の充実と整備(①-1)」(4.20)、5位「地域防災力の向上(②-3)」(4.14)となっている。

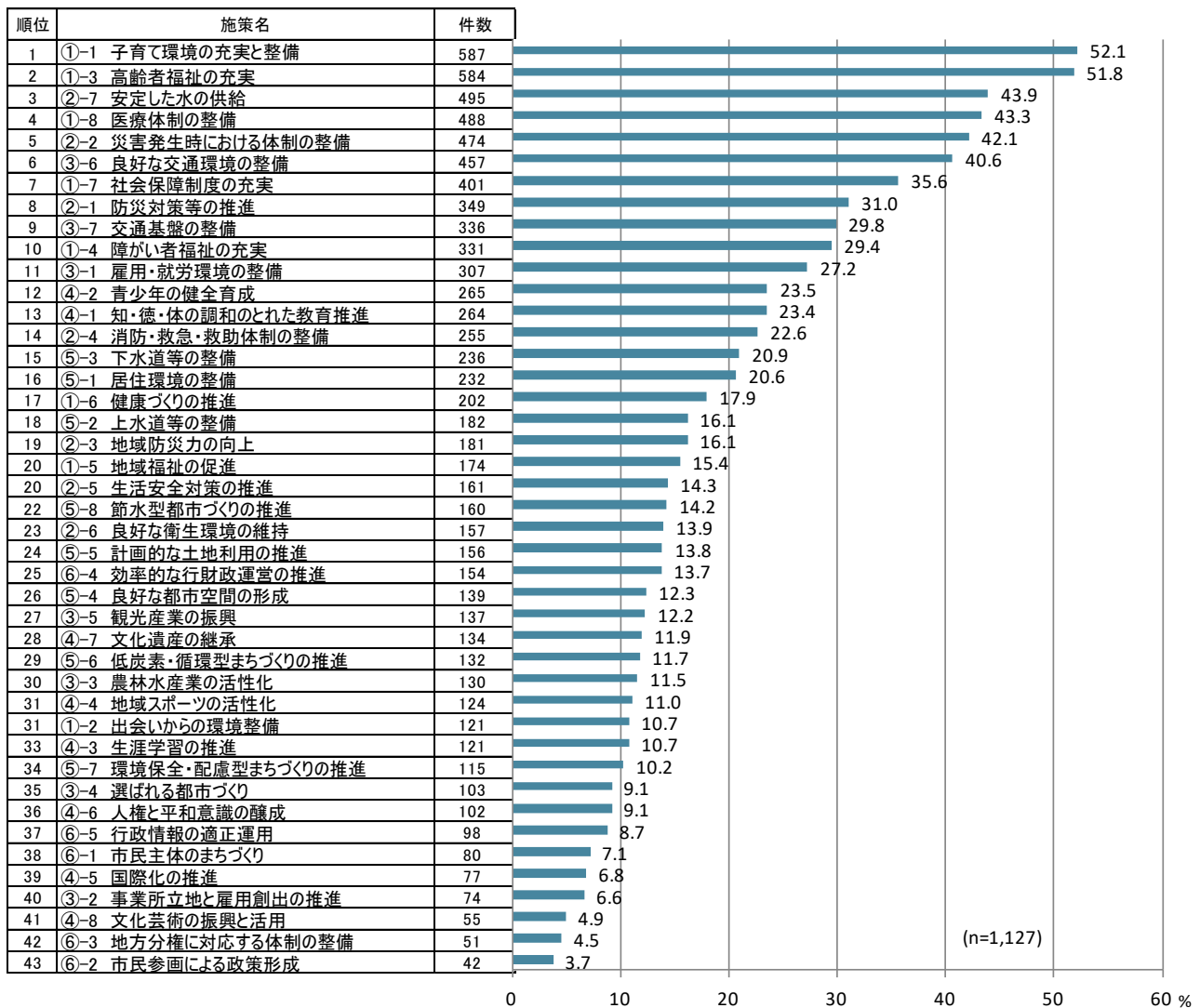
施策別満足度・重要度一覧表（分野別平均）

大項目	施策名	満足度						重要度					
		R1年度		H30年度		H29年度		R1年度		H30年度		H29年度	
		順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点
① 【健康・福祉】	1 子育て環境の充実と整備	8	3.05	25	2.89	23	2.88	4	4.20	4	4.14	4	4.13
	2 出会いからの環境整備	29	2.85	31	2.82	32	2.78	30	3.64	33	3.55	28	3.68
	3 高齢者福祉の充実	32	2.84	29	2.84	33	2.77	10	4.01	15	3.88	10	3.98
	4 障がい者福祉の充実	31	2.84	28	2.84	29	2.80	15	3.90	17	3.85	16	3.86
	5 地域福祉の促進	26	2.87	26	2.88	25	2.83	33	3.56	35	3.50	34	3.52
	6 健康づくりの推進	4	3.09	5	3.09	8	3.02	23	3.78	28	3.72	23	3.75
	7 社会保障制度の充実	36	2.78	35	2.76	36	2.70	20	3.85	21	3.82	17	3.83
	8 医療体制の整備	9	3.04	10	3.01	15	2.94	7	4.11	6	4.09	5	4.09
	①【健康・福祉】平均		2.92		2.89		2.84		3.88		3.82		3.86
② 【安全・安心】	1 防災対策等の推進	37	2.77	40	2.69	34	2.77	3	4.29	1	4.26	3	4.17
	2 災害発生時における体制の整備	35	2.82	37	2.76	30	2.80	2	4.30	2	4.26	1	4.25
	3 地域防災力の向上	28	2.86	30	2.83	26	2.82	5	4.14	8	4.07	8	4.03
	4 消防・救急・救助体制の整備	7	3.07	7	3.06	9	3.01	6	4.12	9	4.06	9	4.00
	5 生活安全対策の推進	11	2.99	15	2.97	12	2.95	11	3.98	11	3.92	14	3.88
	6 良好な衛生環境の維持	6	3.07	4	3.09	3	3.10	12	3.97	18	3.84	15	3.87
	7 安定した水の供給	34	2.82	32	2.81	35	2.76	1	4.31	3	4.24	2	4.20
	②【安全・安心】平均		2.92		2.89		2.89		4.16		4.09		4.06
③ 【産業・交流】	1 雇用・就労環境の整備	39	2.69	39	2.69	38	2.69	16	3.90	13	3.90	12	3.89
	2 事業所立地と雇用創出の推進	38	2.75	36	2.76	39	2.69	26	3.69	26	3.73	25	3.73
	3 農林水産業の活性化	33	2.84	34	2.77	28	2.80	24	3.76	20	3.82	30	3.66
	4 選ばれる都市づくり	3	3.12	3	3.11	5	3.07	35	3.51	31	3.59	38	3.41
	5 観光産業の振興	2	3.25	2	3.25	4	3.09	27	3.69	24	3.78	26	3.71
	6 良好な交通環境の整備	43	2.53	43	2.53	43	2.49	8	4.10	7	4.07	6	4.08
	7 交通基盤の整備	41	2.67	41	2.65	37	2.70	14	3.91	12	3.91	13	3.89
	③【産業・交流】平均		2.83		2.82		2.79		3.79		3.83		3.77
④ 【教育・文化】	1 知・徳・体の調和のとれた教育の推進	13	2.98	20	2.93	27	2.81	13	3.92	10	3.96	11	3.94
	2 青少年の健全育成	30	2.84	33	2.77	40	2.68	9	4.01	5	4.10	7	4.04
	3 生涯学習の推進	18	2.95	13	2.97	20	2.91	38	3.44	39	3.41	36	3.45
	4 地域スポーツの活性化	12	2.99	16	2.97	13	2.94	39	3.41	38	3.43	37	3.42
	5 国際化の推進	19	2.94	22	2.92	22	2.91	41	3.35	40	3.38	41	3.35
	6 人権と平和意識の醸成	14	2.97	17	2.96	16	2.94	37	3.48	37	3.46	35	3.50
	7 文化遺産の継承	1	3.26	1	3.27	1	3.31	29	3.68	29	3.67	27	3.70
	8 文化芸術の振興と活用	10	3.04	8	3.05	7	3.05	40	3.37	42	3.35	40	3.36
④【教育・文化】平均		3.00		2.98		2.94		3.60		3.60		3.60	
⑤ 【環境・都市】	1 居住環境の整備	40	2.67	38	2.72	42	2.60	22	3.81	22	3.80	22	3.76
	2 上水道等の整備	5	3.08	6	3.07	6	3.06	17	3.88	14	3.88	20	3.79
	3 下水道等の整備	21	2.93	18	2.94	18	2.93	18	3.88	16	3.86	21	3.79
	4 良好な都市空間の形成	24	2.90	23	2.91	24	2.85	34	3.56	34	3.55	33	3.58
	5 計画的な土地利用の推進	42	2.66	42	2.64	41	2.63	25	3.72	23	3.78	29	3.67
	6 低炭素・循環型まちづくりの推進	17	2.96	9	3.03	21	2.91	21	3.84	27	3.73	32	3.62
	7 環境保全・配慮型まちづくりの推進	15	2.96	11	2.98	2	3.14	32	3.63	32	3.58	19	3.80
	8 節水型都市づくりの推進	23	2.91	21	2.92	17	2.94	19	3.87	19	3.82	18	3.83
⑤【環境・都市】平均		2.88		2.90		2.88		3.77		3.75		3.73	
⑥ 【自治・行政】	1 市民主体のまちづくり	16	2.96	14	2.97	14	2.94	43	3.28	43	3.34	43	3.23
	2 市民参画による政策形成	20	2.93	12	2.98	10	2.96	42	3.31	41	3.35	42	3.31
	3 地方分権・地方創生に対応する体制の整備	25	2.88	24	2.91	11	2.95	36	3.50	36	3.50	39	3.39
	4 効率的な行政運営の推進	27	2.87	27	2.88	31	2.78	28	3.69	25	3.73	24	3.74
	5 行政情報の適正運用	22	2.92	19	2.93	19	2.91	31	3.63	30	3.63	31	3.65
	⑥【自治・行政】平均		2.91		2.93		2.91		3.48		3.51		3.46
全体平均			2.91		2.90		2.87		3.77		3.77		3.76

2. 施策の優先度について

松山市が実施している施策のうち、市民が優先的に取り組むべきだと思う上位 10 位までの施策は、1 位「子育て環境の充実と整備(①-1)」が 52.1%で、以下 2 位「高齢者福祉の充実(①-3)」(51.8%)、3 位「安定した水の供給(②-7)」(43.9%)、4 位「医療体制の整備」(①-8)(43.3%)、5 位「災害発生時における体制の整備」(②-2)(42.1%)、6 位「良好な交通環境の整備」(③-6)(40.6%)、7 位「社会保障制度の充実(①-7)」(35.6%)、8 位「防災対策等の推進」(②-1)(31.0%)、9 位「交通基盤の整備(③-7)」(29.8%)、10 位「障がい者福祉の充実」(①-4)(29.4%) の順となった。

施策の優先度ランキング

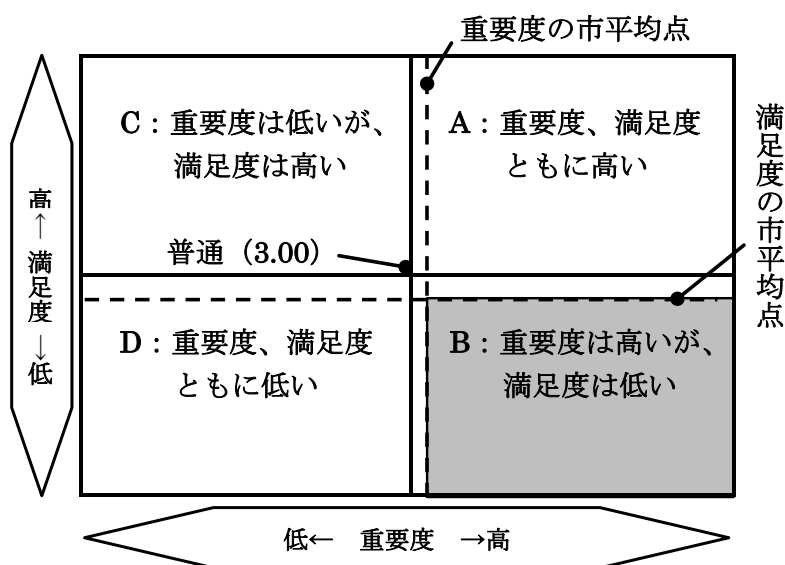


3. 重要度及び満足度、優先度の関係

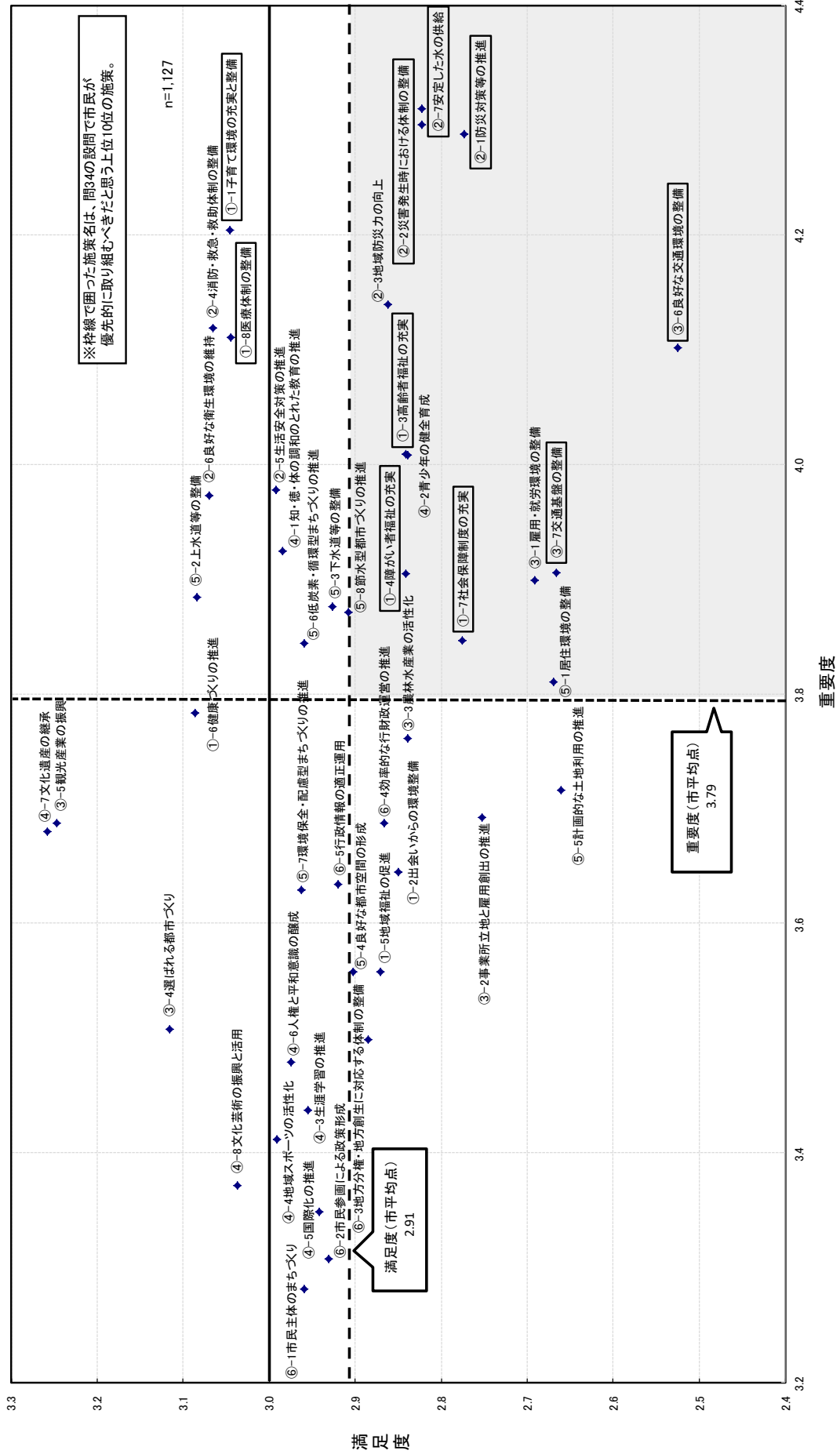
下図のとおり、第6次松山市総合計画43施策ごとの満足度と重要度の評価は、「普通」(3.00)を基準に、「A：重要度、満足度ともに高い」、「B：重要度は高いが、満足度は低い」、「C：重要度は低いが、満足度は高い」、「D：重要度、満足度ともに低い」に整理できる。

市民は、この結果のうち、特に「B：重要度は高いが、満足度は低い」の領域に属し、かつ優先度ランキングの上位に位置する施策を、これまでの市の取組状況から重要と判断しながらも、現状に対する満足度が低く、今後優先的に取り組むべき施策ととらえていると考えられる。

こうした施策に該当する、重要度が平均点(3.79)以上かつ満足度が平均点(2.91)以下の施策としては、「障がい者福祉の充実(①-4)」、「高齢者福祉の充実(①-3)」、「災害発生時における体制の整備(②-2)」、「安定した水の供給(②-7)」、「社会保障制度の充実(①-7)」、「防災対策等の推進(②-1)」、「交通基盤の整備(③-7)」、「良好な交通環境の整備(③-6)」が挙げられる。



市民意識調査における各施策の満足度・重要度の分布と市民優先度の関係



令和元年度 松山市 市民意識調査 報告書（概要版）

発 行：令和2年3月

編 集：松山市総合政策部企画戦略課

所在地：〒790-8571 愛媛県松山市二番町四丁目7-2

電 話：(089)948-6213 F A X：(089)934-1804

電子メール：kikaku@city.matsuyama.ehime.jp